

迎春

株式会社 **Em Road**
エムロード®

令和6年1月1日発行

大阪医科薬科大学仁泉会ニュース

第55巻第1号

成婚率の高さが決め手!!
コンピュータを使わず、すべて手づくり100%の誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、お人柄等バランスのとれたご提案により、無駄のないご紹介を実施しています。ご成婚重視と、プライバシー厳守のため、自社会員のみのご紹介をいたしております。

100%
手作りの
お世話。



Marriage Road 結婚

エムロードはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 自社会員のみ構成
- 4 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 5 格式あるお見合いパーティー



資料請求・お申し込み・お問い合わせ

(株)エムロード

☎ **0120-4122-46**

(10:00~18:00 / 水曜定休)

大阪本社 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満 3-2-2 エムロードビル 3F

資料請求

- エグゼクティブコース
- ドクターズコース
- スタンダードコース
- シニアズコース

エムロード 結婚

検索

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第55巻第1号

発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636

発行者 発行部数
安藤嗣彦 6,250部

URL
http://www.jinsenkai.net



謹賀新年

目次

新年のご挨拶

- P3 大阪医科薬科大学仁泉会 理事長
- P4 学校法人大阪医科薬科大学 理事長
- P9 大阪医科薬科大学 学長
- P10 東日本支部 支部長
長野県支部 支部長
- P11 静岡県支部 支部長
- P12 岐阜県支部 支部長
- P13 仁泉会大阪府支部連合会 会長
阿倍野支部 支部長
- P14 港区支部 支部長
生野支部 支部長
- P15 東住吉平野区支部 支部長
- P16 住吉住之江支部 支部長
高槻支部 支部長
- P17 東大阪市支部 支部長
寝屋川支部 支部長
- P18 京都仁泉会 会長
- P19 神戸支部 支部長
広島県支部 支部長
- P20 和歌山県支部 支部長
- P21 愛媛県支部 支部長
- P22 学部23期評議員
学部43期評議員

学会報告

- P24 日本脊椎関節炎学会 第33回学術集会を終えて
支部だより
- P28 仁泉会阿倍野支部総会の報告
- P30 2023（令和5）年度 淀川区支部会開催
- P31 令和5年度仁泉会三重県支部総会の報告
クラス会だより
- P32 八起会（学八 昭和34年卒）総会報告
- P33 ゴルフ49杯
- P34 学部25期生（昭和51年卒）同窓会開催報告
- P35 平成10年卒（学47期）卒後25周年記念同窓会

仁泉ひろば

- P36 バドミントン部OB/OG総会開催報告
- P38 大阪医科薬科大学軽音楽部60周年記念パーティー報告
- P40 奈良の春日野

- P41 新聞切抜 細井 順先生（学27期）
- P42 まんが第65回スペシャル拡大版

本部だより

- P44 理事会開催報告
会員計報
- P48 仁の泉
編集後記

- 安藤嗣彦（学20期）
- 植木 實（学12期）
- 佐野浩一（学29期）
- 中嶋秀人（学37期）
- 高島俊夫（学21期）
- 吹田浩之（学36期）
- 小嶋昭次郎（学29期）
- 霜野良一（学28期）
- 福本敏子（学24期）
- 奥村隆司（学31期）
- 村田高穂（学22期）
- 長谷川利雄（学32期）
- 濱崎憲夫（学42期）
- 保田 浩（学31期）
- 大西洋一郎（学25期）
- 石田 徹（学32期）
- 河野龍而（学35期）
- 増井裕嗣（学29期）
- 小野誠治（学28期）
- 湯川裕史（学29期）
- 井関亮甫（学23期）
- 梶野興三（学23期）
- 黒川晃夫（学43期）

- 岡本奈美（学47期）

- 福本敏子（学24期）
- 熊野宏二（学39期）
- 子日光雄（学25期）

- 枘岡 進（学8期）
- 竹中正純（学23期）
- 石原 正（学25期）
- 平野 一（学47期）

- 神吉佐智子（学48期）
- 二村吉継（学49期）
- 岡野 准（学21期）

ポン太ールカプセル250mg（学31期）

メビオ出身の 大阪医科大学卒業生の皆様

メビオは1980年の創立から44年間、天満橋の地で医師を目指す受験生のサポートをしてきました。

皆様のご活躍を誇りに思っております。お近くへお越しの際は、ぜひ当校にお立ち寄りください。

2024年4月

高卒生または高校卒業見込みの方

2/11(日)START

お好きな方にご参加いただけます！

メビオの寮を体験したい方！

近隣からお越しの方！

2泊3日
無料体験

2日間
無料体験登校

授業

寮

食堂

メビオの授業と食堂
はどちらでも
体験できます！

お申込はこちら



設立40年以上の伝統 メビオの特長

— 医学部合格に必要な全てがここに —

- 1 少人数クラス授業と個別授業
による手厚い指導
 - 2 精鋭講師40名以上が1校舎に在籍
 - 3 毎日自習室利用・質問可能
 - 4 小論文・面接や推薦入試対策も万全
 - 5 寮・食堂完備
- 学校説明会 / 無料体験授業
随時受付中！



2月
開講

新高1～高3
新学年準備講座



〈お問い合わせ・お申し込み〉

医学部進学予備校

メビオ

フリーダイヤル
☎ 0120-146-156

携帯からOK 受付時間9:00～21:00(土日祝可)

https://www.mebio.co.jp/

校舎にて個別説明会（館内・寮見学）も随時実施しております。

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12

天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分

新年の御挨拶

大阪医科薬科大学仁泉会

理事長 安藤嗣彦 (学20期)

新年あけましておめでとうございます。本年も会員の先生方の御健勝と御多幸を祈念いたします。

昨年今頃はCOVID19がまだ流行し、マスクなしで外出される人には脅威すら覚えましたが、現在A型インフルエンザの流行にも拘わらずマスク着用者は激減している現状です。

昨年 阪神タイガースが、セ・リーグの優勝を果たしました。流行語大賞にもノミネートされた“アレ”が現実のものとなりました。セ・リーグ優勝のかかった広島カープとの一戦には、私は甲子園球場で観戦していましたが、勝った瞬間飛び上がり、バンザイを連呼し、美酒に浸りながら“六甲おろし”を歌いました。更に日本シリーズでは、パ・リーグの覇者 オリックス・バファローズに勝利を収め、38年ぶりの日本一を達成しました。

さて、大阪医科大学の100周年事業として計画された事業は進捗しています。手術棟、エネルギー棟に続き、新本館A棟（12階建て）での24時間断らない3次救急の体制が整備され、救急患者さんもうなぎ登りに増えています。循環器、外科、内科、消化器外科、整形外科等の救急に対応した医局も整備されました。

大阪医科薬科大学病院の特長の1つに交通の便が挙げられます。阪急高槻駅からはほぼ直結し、JR高槻駅からも徒歩圏内です。これ程交通の便のよい大学病院は全国でも少ないと思われます。現在、12階建てのB棟の工事が始まり、完成の暁には西日本でも有数の大学病院になることでしょう。又、世界に2カ所しかないB NCT棟も稼働し再発性の頭頸部癌に対する有効率は1回の放射線照射でも70%近い有効率との治験結果も出ています。厚労省から正式に認可されれば全国からも注目されるでしょう。

更に学問の面でも、大阪医科大学卒業で他大学の医学部や医療系の大学等にて教授に就任されておられる優秀な先生が38名もおられる事です。(仁泉会事務局調査)

さて、コロナ禍で自粛されていた支部会が、クラス会が、

続々と再開されています。これらの会がなくて会員同士の親睦はありえません。仁泉会は支部会開催時、講演会の講師並びに理事派遣、更には賛助金贈呈等の事業を行っています。又、クラス会開催時には案内状の発送の事業もしております。お気軽に御依頼下さい。

現在、日本のみならず、医療分野は驚く程のスピードで進歩し、今後AIを駆使した診断治療が主体となるでしょう。これからの事業や医療器具の購入には高額の資金が必要で、大学からの寄付の依頼にも御配慮いただければ幸いです。

大阪医科大学と薬科大学が合併し、本学は医学部、薬学部、看護学部、大学院を有する医療系の複合大学となりました。これを契機に医学部と薬学部の同窓会同士の交流も行われています。現在、本部総会時や、懇親会では薬学部の同窓会長も招待し交流を深めています。各支部におかれましても何とぞ御配慮いただければ幸いです。

仁泉会では、同窓会事業以外にも様々な事業があります。基金部門では奨学金貸与事業があり、一般部門として大学の教室主催の学会への援助、学園祭、西医体の援助、優秀な成績で卒業された学生に対する仁泉会理事長賞等々多岐に及びます。これらの事業は先生方の年会費にて運営されています。現在会費の納入率が50%を切っています。是非とも御協力の程お願いいたします。

以上、仁泉会理事長の新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

学校法人大阪医科薬科大学
理事長 植木 實

新年おめでとうございます。

皆様にはよい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

旧年中、仁泉会の諸先生方には大変お世話になり、感謝申し上げます。



さて、世界はロシアのウクライナ侵攻が始まって凡そ2年、そして般般はイスラエルとパレスチナ（ハマス）との間で軍事紛争が起こり、最初の2～3週間だけでも双方1万数千人が死亡し、また、アフリカでもいくつかの部族間で衝突が生じています。人間はいつ（何歳）になったらこのような戦いを止めるのでしょうか。

最近の世界経済情勢は長期の地域間紛争により物流の混乱、物価の高騰、不安定な金利が続いています。日本経済も新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染者数の低下もあって緩やかな回復にあるものの、

円安ドル高が止まらず、物価の高騰、人件費の上昇、働き方改革に伴う労働力不足、大学では入学定員割れが増えるなど、本学法人を取り巻く状況は厳しくなっています。

ここで昨年度（2022年）及び今年度（2023年）の法人及び大学病院の収支を振り返ってみたいと思います。

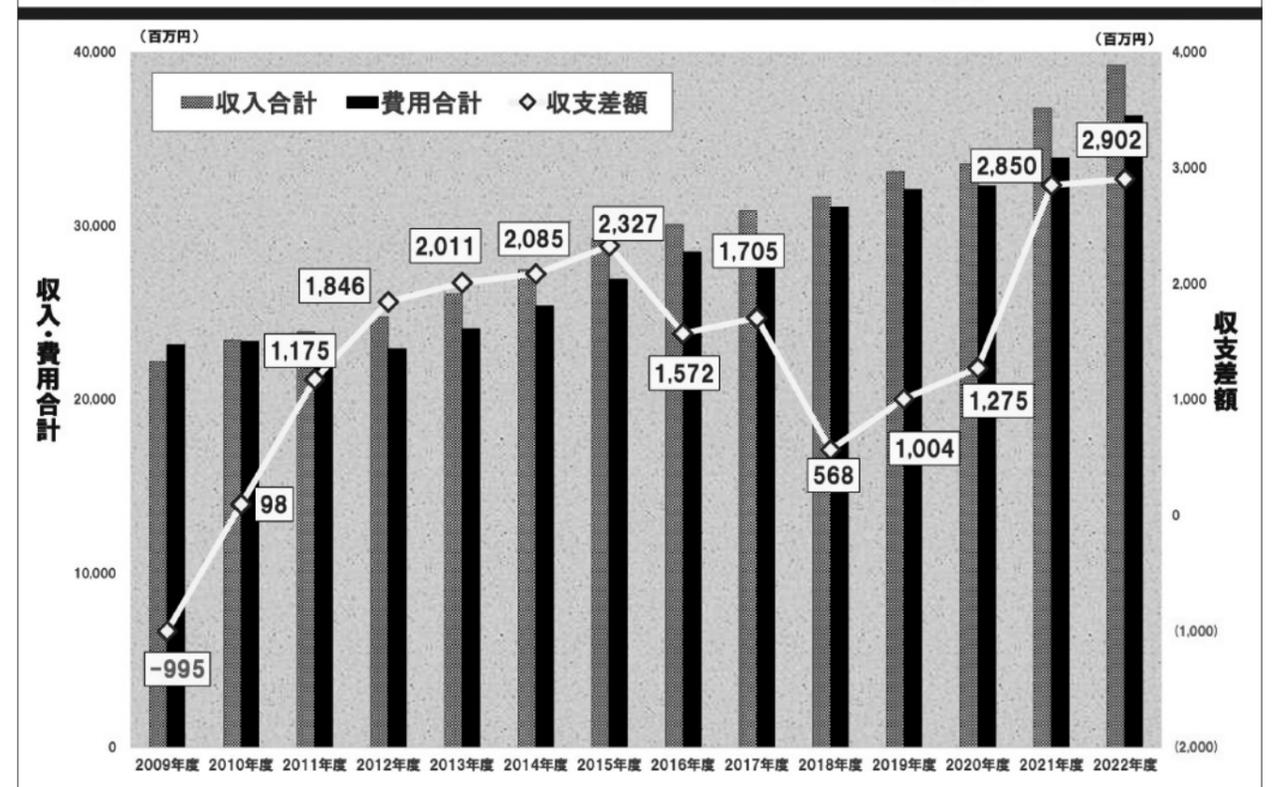
まず大学病院について、2022年度は新型コロナウイルス感染症への対応が減少したことから、外来患者数（新患・再来）は前年度に比べて1日平均73人増えて2,147人に、入院患者数は1日平均23.8人増えて736人、病床稼働率は+0.8%の87.3%、平均在院日数は-0.3日の11.9日、そして外来診療単価は少し減少して19,296円、入院診療単価は+2,693円の91,735円となり、収入合計は+6.7%の39,231百万円となり、そのうち医業収益が+4.43%の35,706百万円となりました。ここで医業利益（医業収益-医業費用）をみますと、医業費用が36,136百万円と大きく伸びたことにより医業利益は-430百万円と赤字でした。これは全国の大学病院とも同様ですが、人件費、医材費、光熱水費及び給食材料費等の高騰によるものです【図1】。しかし、2022年度はコロナ関連補助金や開院した救命救急センター部門の建築補助金を含んだ医業外収益3,525百万円が

【図1】【大学病院】2022年度 補助金を除いた 裸の収支差額



	(単位:百万円)
① 医業収益	35,706
② 3次救急運営協力金等	510
③ 医業外収益 (病院補助金:コロナ関連等)	3,015
収入合計	39,231
④ 医業費用	36,136
⑤ 医業外費用	194
支出合計	36,330
①-④ 医業利益	-430
①+②-④ 医業利益	80 百万円

【図2】【大学病院】年度別収支差額の推移



あったことから、これらの補助金で収支差額が黒字になるという皮肉な結果になりました。法人全体についても、前述の補助金等により昨年度（2022年）の収支差額は4,624百万円の黒字となりました【図2・図3】。ただ、今年度（2023年度）は補助金等はほとんど望めず、本大学病院の経営に高い危機感を持って臨んでおりますが、4～10月の病院収支差額は月に変動はあるものの+258百万円の状態にあり【図4】、12月～1月の休日及び医師の冬期休暇による減収を心配しております。

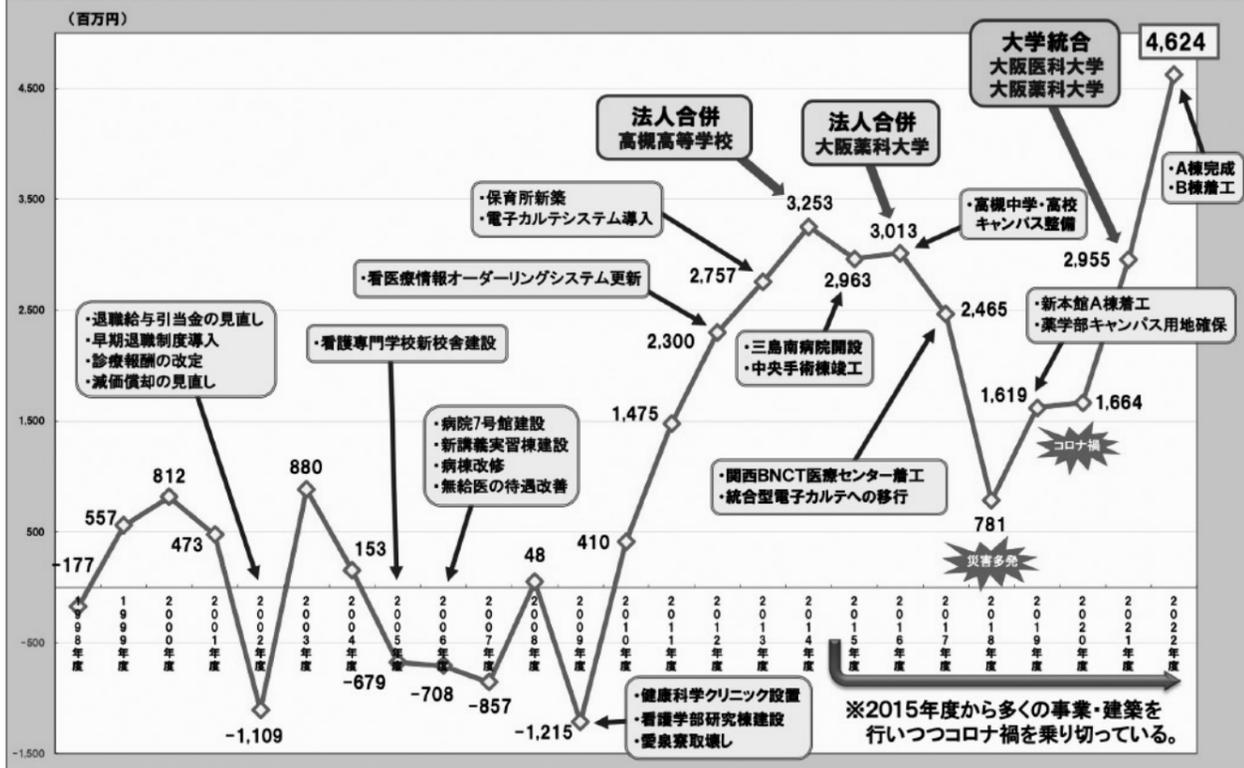
このような本大学病院の環境下において、本学法人では一昨年7月に完成した病院新本館A棟は救命救急センター及び放射線診断・治療科を中心とする各検査センターが極めて順調に稼働しており、中でも三次救急が加わった救命救急センターは三島医療圏の救急患者の最後の砦となっています。次に建築が進んでいる病院新本館B棟【図5】は、病院の顔となる玄関・外来棟が約半分を占め、待ち時間の多かった会計及び支払い等はAIの活用で著しく改善される予定であり、基本構想に掲げる「超スマート医療を推進する大学病院」の具現化が図られます。また、同一臓器を診る内科と外科は同一フロアで受付するなど、スーパースマートホスピタルの名に相応しい先進的機器を備えた医療体制を整

えると共に、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られるというバイオフィリアの考えに沿い、大原美術館と提携してホスピタル・アートを採り入れる計画です。それと同時に、患者さんやそのご家族に優しい、医療従事者にも親切的な「あたたかい病院作り」を進めており、ご意見箱に寄せられる患者さんやご家族からの投書が感謝やお褒めの言葉で50%を超えることを目標の1つに据え、教職員全体でホスピタリティある対応ができるよう、接遇を改めて見直す活動を始めています。これは、本大学病院が掲げる経営スローガン「大学病院のValue発揮の刻」を推進することにもつながると信じています。

また、文部科学省は令和10年までに全大学耐震化100%構想を立てていますが、本大学も病院以外の建物も建て替える必要があり、古い建物の法医解剖室・法医学教室と実験動物センターを合わせて第1研究館とし、旧学生会館跡に今年中（6月頃）に着工し、約1年で完成の予定です【図6】。

一方、本学法人は、令和7年4月に実施される私立学校法改正法の趣旨を踏まえ、寄附行為変更や関連する規則類の整備を行い、効率的で公正・安定的なガバナンス体制の構想を進めています。また、大学では三学部とも改訂モデル・コア・カリキュラムに対応した新カ

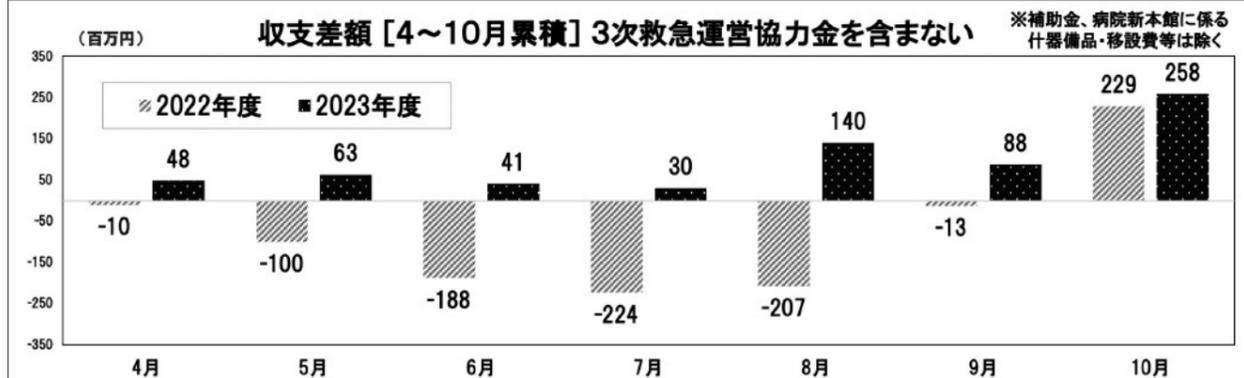
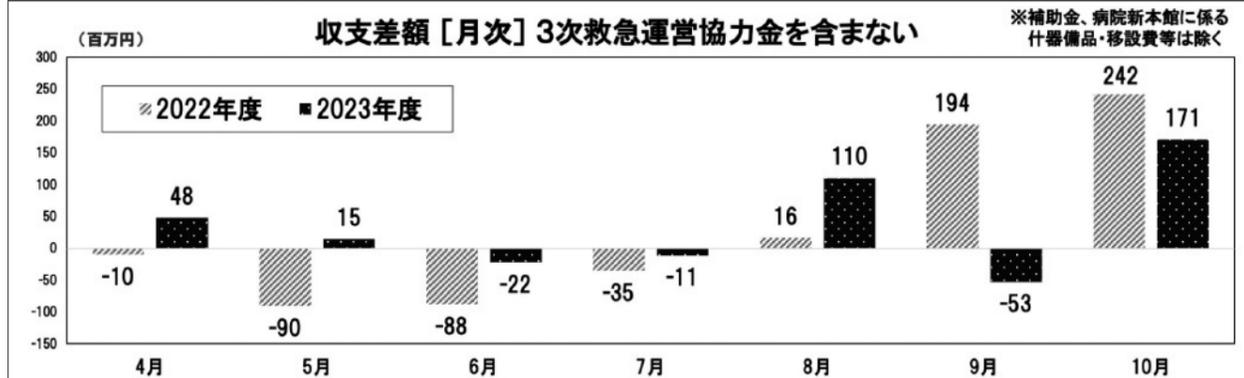
【図3】学校法人大阪医科薬科大学の事業活動収支差額の推移



【図5】病院新本館 B棟建築 2025年8月 グランドオープン



【図4】【大学病院】2023年(4月～10月) 前年実績との差異



【図6】本部キャンパス耐震化100%整備事業



リキュラムの実施、多様な入試制度や各種センターの整備を行い、研究面では教員個々の研究を支援すると共に先端のがん治療BNCTや小児高次脳機能 (LD) 研究所の活動を促進します。高槻中学校・高等学校においては、グローバル教育の推進を引き続き図りながら、徳育教育や高大接続の推進などに注力し、人物育成型の最優の進学校を目指します。

本学法人は、設立当初から教育・研究・医療を通じて社会貢献活動を行ってまいりましたが、2015年9月に国際本部で開催された「持続可能な開発サミット」において採択された「持続可能な開発(発展)目標(SDGs)」に共感すると共に、社会貢献活動は持続(継続)可能であることが重要であるという考えに至りました。2020年度後半から「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」に参画して他大学と共に活動を始め、2022年には「社会貢献・SDGs推進室」を設置し、本学法人の社会貢献・SDGs活動に関する情報を集約して「社会貢献SDGsサイト」を立ち上げて公開するなど、教職員はもとより、多くのステークホルダーに情報を発信しています。また、人の健康を支え、持続可能な社会に貢献できる人材育成を目指し、2023年度より大学院修士課程にSDGs/SDHコースを開設しました。他にも、大学や企業、自治体といった外部組織との共創を通して新たな価値を生み出す活動も進めています。

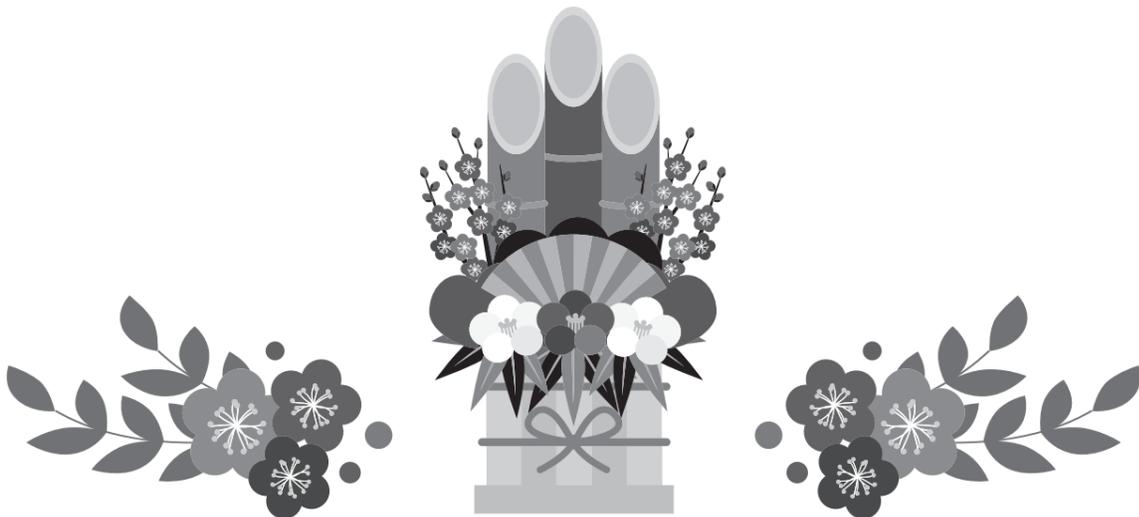
本学法人の社会貢献・SDGs活動は、ISO26000(組織の社会的責任に関する国際規格)とSDGsの考えを融合させて「サステナビリティ活動冊子」としてとりまとめ、2024年3月には「生まれる、繋ぐ、輝くINOCHI」をコンセプトに定めた第4版が完成します【図7】。

発刊されました仁泉会の皆様にもお届けする予定ですので、ご高覧下されば幸いです。

本学法人は今年も堅実/スマート経営を行いつつ、super smart 教育・研究・医療を実践し、さらなる成長を図ってまいります。

仁泉会諸先生の本年の益々のご健康とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶と致します。

【図7】



新年のご挨拶

大阪医科薬科大学
学長 佐野浩一

仁泉会の皆様、初春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、母校大阪医科薬科大学に深いご理解と厚いご支援をいただきありがとうございました。本年も皆様の一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

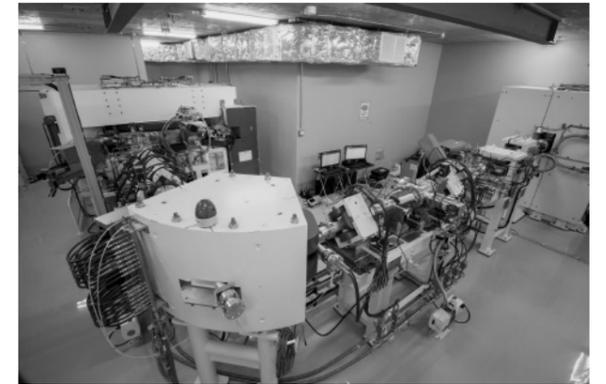


さて、新型コロナウイルス感染症への対応が緩和され、久々に新年の祝い事が戻ってまいりました。お正月の行事は、旧年を過ぎ、今ここにあることに感謝し、新年の豊穡を祈るために催すといひます。母校は、本年、統合4年目を迎えようとしています。3学部が、それぞれの学部長をはじめとする教員職員そして学生が節度と調和をもってお互いに協力し、教育・研究・診療に勤しむことができたことに感謝し、統合4年目も恙なく日々の活動が続くように祈るところです。

昨年は、改正された医師法の施行によって、CBTとOSCEが公的化され、臨床実習生(医学)いわゆるStudent Doctor 制度が導入されたことは、医学部にとって大きな変化であり、新年からはじまる臨床実習に向けて、医学部教員を増員いたしました。いよいよ本年から新しい医師養成課程が本格化することになり、身の引き締まる思いであります。

また、昨年より始めた推薦入試のトライアルを本年は公募制推薦を導入して全国規模に拡大し、他学に劣らぬ制度の設計を企てており、本学の価値を認め、心から本学への入学を希望する学生を12月に選抜することができます。

研究面では、個々の教員の独創的な研究に加え、AMEDのプロジェクトが実用化を果たし、本学発の新たな医療材料が世界に向けて発信されるほか、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)がめざましい成果を挙げております。また、病院本館の建築も進み、本年は以前にもまして、飛躍の年となります。



BNCT サイクロロン

他方、国内外の情勢に目を向けますと喜ばしいことばかりではなく、物価の高騰や大地震への不安や対岸の火とは思えぬ世界各地の戦乱や紛争などがあります。しかしながら、本学百年の歴史を振り返りますと、本学医学部の前身大阪高等医学専門学校の開設起案の直前に首都を襲った関東大震災(1923年)、開学直後に起こった世界大恐慌(1929年)、室戸台風による大水害(1934年)、第二次世界大戦(1939~1945年)、大学紛争(1960年代)、バブル崩壊(1991年)、阪神淡路大震災(1995年)、リーマンショック(2008年)、東日本大震災(2011年)、大阪府北部地震(2018年)など、先人が幾多の試練を乗り越え、今の大阪医科薬科大学医学部があります。その先人への感謝の念を重ねるとともに、仁泉会の皆様の御多幸と仁泉会の益々の御発展をお祈りしつつ、本学の明るい未来に向けて、直面する困難を乗り越える志を新たに、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

東日本支部 支部長
中嶋秀人（学 37 期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の先生方には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

3年間におよぶコロナ禍を経て、昨年5月より新型コロナウイルス感染症は「2類相当」から季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行されました。コロナ感染症が消滅したわけではありませんが、医療現場での奮闘や警戒を続けつつ、以前の日常生活を取り戻した昨年の1年でした。特にスポーツでは話題も多く、侍ジャパンのWBC世界一や大谷翔平選手の大リーグMVP、とりわけ関西では、プロ野球の阪神タイガースとオリックスバファローズの優勝、サッカーJ1リーグのヴィッセル神戸の優勝と大きな盛り上がりもありました。一方で私の所属する日大はアメフト部の問題で再度注目を集め、終息する気配もなくやるせない思いを抱えて年を越すことになりました。

私は2018年に関西から東京に赴任し、赴任まもなく同級生の井利雅信先生や当時の東日本支部長の酒谷 薫先生にお会いすることができ、これから東日本支部の先生方と親睦を深めたいと願っていたところでしたが、コロナ禍に突入したため3年間叶えられませんでした。そのような中、一昨年に酒谷 薫先生より東日本支部長を引き継ぎし、支部会の運営に不安を感じる中、昨年7月に東日本支部総会を東京国際フォーラムの東天紅で開催いたしました。総会の内容は副支部長の井利雅信先生から大阪医科薬科大学仁泉会ニュース第54巻第5号に報告させていただきましたが、総勢25名の方々に参加いただき、大学からは安藤嗣彦理事長（学20期）、佐野浩一学長（学29期）の両先生にお越しいただいて楽しく華やかな懇親の機会を共有することができました。私の個人的な感想になりますが、まず、学生時代や大阪医科大学勤務時に親しかった永井 章先生（学38期）、岩尾憲明先生（学39期）、松木 充先生（学40期）、畑中正行先生（学40期）に再会できたことは大変嬉しかったです。また、東日本支部のメンバーは大学病院や主要な市中病院、クリニック経営や在宅診療の現場などそれぞれの臨床現場の最前線で活躍する先生ばかりで、有意義で特別な機会を持つことができたと思いました。今年は6月8日土曜日に昨年と同じく東京国

際フォーラムの東天紅で令和6年度東日本支部総会を開催させていただく予定です。東日本支部の皆様にはあらためてご案内差し上げますので、ご参集を賜りたくお願い申し上げます。引き続き副支部長の井利雅信先生と協力して仁泉会東日本支部の発展に努力する所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2024年4月から医師の働き方の適正化に向けた取り組みとして「医師の働き方改革」が開始されます。「勤務医の時間外労働の制限」「連続勤務時間制限」、「長時間勤務医師に対する面接指導による健康確保」など医師の労働時間に関する取り決めが設けられ、私が勤務する病院でも、この制度に対応すべく勤怠管理システムの整備が進められています。これに伴って、職場での人員を確保する仕組みも必要であり、関連施設への医師の派遣など人事については思考を転換する必要も生じていますが、医師の健康の確保や仕事と家庭の両立を実現するための重要な制度となります。大学病院に勤めていますと、最近、メジャーの内科系・外科系診療科に進む人が減ってきているのを感じますが、この「医師の働き方改革」とともにメジャーの内科系・外科系診療科に進む人が増えることを望みますし、私の教室に入る医師が増えてくれるよう対策を講じたいと考えているところです。今後、いろいろな課題が出てくるのではないかと思われますが、皆さんと情報交換して困難を乗り越れるよう励みたいと存じます。

末筆ながら皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

長野県支部 支部長
高島俊夫（学 21 期）

仁泉会の皆様明けましておめでとうございます。昨年のご挨拶にも同じことを書きましたが、すでに4年間続いている新型コロナウイルス感染症流行に対する政府の無知で軟弱な政策は、流行を抑えるどころか、大きな流行をくり返し、5日目になる現在も流行終焉の兆しは全く見えずに我々の日常診療や経営、又社会活動に大いなる悪影響をもたらしています。

現在は新型コロナに罹患しても5日間経過すれば、登園、登校、通勤等無条件で許可している国の方針は、

新春のご挨拶

静岡県支部 支部長
吹田浩之（学 36 期）

原稿を書いている11／12の霊峰富士は未だ雪化粧せず、壮大な体格は大いなる尊厳を表して、威厳を放つてはいるものの、夏から続く暖冬の影響とは思いますが、世界の紛争を嘆いているかのようです。

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様のご健康とご多幸をお祈りしています。我が大阪医科薬科大学のさらなる発展を常に祈念しております。

月に1回ですが、静岡市葵区にある静岡英和女学院旧宣教師館でギターのレッスンを受けています。この建物を建築したのがウイリアム・メレル・ヴォーリスという有名な建築家です。さらに宣教師で事業家、メンソレータムを日本に広めた人物だそうです。大阪医大の線路側正面にあった研究棟?本館?名称は忘れてしまいましたが、その建物を設計したのも、このヴォーリスさんです。石材できていて薄暗くて、幽霊が出そうな建物だったと記憶しています。意外なところで大学とつながりました。感激です。改築に伴い失ったようですが。一部が歴史資料館として残っているようです。ぜひ見学に行きたいと思

います。静岡市医師会の副会長は2年前に辞めましたが、そのころ心不全の病診連携システムを作ろうと、動いていました。他府県のシステムを参考にしようとしていたところ心不全ポイントという簡便な評価法で見事に連携を形成している大阪心不全地域医療連携の会を見つけました。OSHEFというニックネームで北野病院と大阪市立総合医療センターとの間で構築されたものでした。内容は素晴らしく、ぜひ静岡市でもこの活動に参加したいと思ったのですが、会長の反対にあい実現できませんでした。その中心的役割を担っていたのが中根英策先生で調べたら大阪医大3内科の所属でした。なんと私と同門です。嬉しくなりました。大阪医大卒の先生たちはいろんなところで頑張っているのだとわかりました。これからもよろしく願います。

新型コロナウイルスの流行を後押ししているようで納得出来ません。

この文を書いている10月下旬でも新型コロナ感染症流行は終焉することなく継続しています。「ポストコロナ」の言葉はどうなっているのか、いつ使うのか疑問だけです。

そういう私も昨年5月27日に6回目のコロナワクチンを接種して3週間後の6月21日に新型コロナに感染しました。症状は軽く、発熱、咳嗽、咽頭痛は無く、「声がれ」が少し強い程度でした。それでもと思って抗原検査を行ってみるとハッキリとクッキリと強陽性でした。

症状が軽かったのはコロナワクチンを規程通り接種してたからだろうと推測しています。

自宅の2階の6畳の一室に隔離状態で10日間以上3食運んでもらい、ほぼ読書だけの生活を続けました。

ただ抗原検査を朝、夕1日2回定期的に実施しました。このことは感染が判明した時に後期高齢者になるまでは、感染症専門医だった私の意地からか、陰性化するまで抗原検査は続けると決意していました。「声がれ」は3日間で改善していましたし、感染後5日目には“もう陰性化するだろう”と実施した抗原検査がハッキリとクッキリと陽性でした。この状態は7日目でも変化なく、10日目でもハッキリとクッキリと陽性で、11日目の朝の検査で少し薄くなり、12日目の朝の検査で陰性と判定出来ました。

我が国では保育園も幼稚園も学校も会社も感染後5日たったら登園、登校、出勤OKで社会全体が同じ行動で生活しています。ウイルスをまき散らしているわけで、これでは流行は鎮まりません。

少なくとも登園、登校、出勤は本人の抗原検査でウイルスの陰性化を確認してからにすべきだと考えます。ただ私の乏しい臨床経験ではコロナに複数回罹患した場合、2回目以後の感染はウイルスの抗原検査の陰性化は早いようです。

新年にそぐわない内容の話題で申し訳ありません。本年も宜しく願い申し上げます。

末筆になりましたが仁泉会の皆様の益々の御活躍、御健康をお祈り申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。



年頭挨拶

岐阜県支部 支部長
小嶋昭次郎（学29期）

新年明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様に何かとお世話になり感謝申し上げます。

コロナ禍のため、令和2年より中止しておりました県支部総会を、昨年10月29日に4年ぶりに開催いたしましたので、ご報告致します。

第1部として総会と記念講演をJR岐阜駅に隣接する“じゅうろくプラザ”の4Fにある研修室1で行いました。総会では冒頭、本部よりお越しいただいた安藤嗣彦理事長に来賓のご挨拶を頂戴いたしました。続く議事では、支部長交代の案件を審議いただき、私の退任と後任に赤尾幸博先生（学27）の就任を議決いただきました。また合併した大阪薬科大学の同窓会との関係性をどうするかを今後の検討課題としていくこととなりました。総会終了後、昨年9月1日付で岐阜大学医学系研究科消化器外科・小児外科の教授に就任されました松橋延壽先生（学45）にご講演をいただき、これからの医学教育の課題や進展・展望など貴重なお話を伺うことができ

ました。大変お忙しい中、快くご講演を引き受けて頂きました松橋先生には、この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

第1部終了後、1Fロビーにて記念の集合写真を撮影後、同じフロアにあるレストラン「ラ ローゼ プロバンス」で懇親会を開きました。最長老である上村博幸先生（学22）より乾杯のご発声を頂き始まった宴は、大変盛り上がり、途中出席者全員からスピーチを頂戴し、時間の過ぎるのを忘れてしまうほどでした。最後に、来年は第5回「新三水会」（愛知、三重、岐阜合同）の当番幹事に当たっていることをお伝えし、皆さんのご協力をお願いするとともに、一人でも多くの方のご出席をお願いしお開きとさせていただきます。

足かけ10年にわたる支部長の大役を終え、安堵の思いと、この間お力添えを頂いた多くの方への感謝の気持ちでいっぱいです。令和6年念頭にあたり、岐阜県支部長としての最後のご挨拶とさせていただきます。



出席者：敬称略

【前列左から】渡辺寛（学27期）松橋延壽（学45期）安藤嗣彦理事長（学20期）上村博幸（学22期）小木曾和夫（学25期）

【後列左から】小嶋昭次郎（学29期）赤尾幸博（学27期）廣瀬仁士（学63期）小嶋範子（学29期）杉山恵みり（学67期）

荒木みどり（学60期）森下めぐみ（学53期）小野木浩人（学42期）操裕（学45期）

新年あけまして おめでとうございます

仁泉会大阪府支部連合会 会長
霜野良一（学28期）

新しい年が明け、会員の先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さてコロナ感染症も5類となり定点観測になったため、以前のように発生患者数の把握が出来なくなりましたが、昨年8月には第9波が来て今も多くの感染者が発生しているようです。

仁泉会大阪府連合会は、しばらくは活動休止していましたが令和4年度より通常どおり活動を再開し、理事会、支部長会、安藤嗣彦仁泉会理事長と増田豊大阪医科薬科大学薬学部同窓会会長をお招きしての夏季懇親会、学術講演会が順次、開催されました。

新理事として中田英二先生（学28期）、武市道範先生（学30期）、長野文昭先生（学32期）に就任して頂きました。また佐藤公彦先生（学12期）の監事退任に伴い、新監事として中透先生（学25期）、中島周三先生（学32期）に就任して頂きました。

昨年11月11日に開催された学術講演会には日本医師会より副会長の茂松茂人先生をお招きし、「最近の中央情勢とかかりつけ医の糖尿病薬の処方状況～診療報酬改定の行くえ～」という演題で講演して頂きました。出席者は68名で、終了後の懇親会にも多くの先生方に参加して頂きました。（私は残念ながら長男の結婚式と重なったため欠席でしたが）

大阪府連の活動としましては、一昨年暮れにホームページを立ち上げましたが、まだまだ投稿は少なく、先生方の一層のご協力をお願いします。

また大阪府連の会費納入率も支部によりバラツキがあり、全体としては、仁泉会本部への納入率に比べ低い率となっています。そこで理事の奥村隆司先生（学31期）、長野文昭先生（学32期）、久保田泰弘先生（学36期）、森川浩志先生（学36期）に加えて丸川治先生（学32期）によって広報委員会を立ち上げて頂き、支部活動、会費納入率のUP、メーリングリストの作成、新規開業の紹介、病診連携の支援などについて協議して頂いています。

今後は更に会員先生方のご協力が必要と思いますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

最後に私事になりますが、令和6年8月に一旦医院を閉院し診療所兼住居を新築することになりました。工事期間は約半年ですので令和7年6月頃には次男を院長として新規開業することになります。私も週に2日くらいは外来を手伝う予定です。

工事期間中の連絡先は自宅マンションとなりますので宜しくお願いします。

住所：大阪市住吉区殿辻1-4-14-209

TEL、FAX：06-6698-3228

新春を寿ぎて

阿倍野支部 支部長
福本敏子（学24期）

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が5類に分類されて、初めての新春となりました。会員の先生方におかれましては、お元気に新年をお迎えの事と存じます。阿倍野支部におきましても学9期の越川恵先生を筆頭に皆、心ひとつに仲良く励まし合って頑張っています。年間行事としては、夏の納涼会、秋の総会が主な活動となっていますが、今後はスコアを気にしない「懇親ゴルフ大会」を計画しています。

今年も大阪鉄道病院との病診連携、また、診療所間の診診連携を実践してまいります。

今年もご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



謹賀新年 —ARE(アレ)考—

港区支部 支部長

奥村隆司（学 31 期）

新年明けましておめでとうございます。先生方に於かれましては健やかに新しい年をお迎えした事をお慶び申し上げます。今年甲辰年で「成功という芽が成長し姿を整えていく」という暗示があるようです。コロナ禍で得た経験、知識を成功の種にして大きく発展してもらいたいです。

2023年は阪神タイガースはアレを目指してアレしました。マスコミだけでなく一般ファンでも優勝という言葉を使わずアレを応援しました。優勝という言葉を使わずアレというほんわかした言葉で選手にプレッシャーを与えずに個々の力を伸ばしてチーム力を上げようとする岡田監督の戦略と言われています。また、本当の優勝まで封印するゲン担ぎもあるようです。しかし、アレ=優勝と認知されている状況で十分プレッシャーになっているやんかとツッコミを入れたくなります。「あれ」という言葉は距離的、時間的、心理的に遠くにあるものを指す意味の他に、「彼はあれでいて〜」では見かけと違って、「私が言うのもあれですが」では言い過ぎた・具合が悪い、などの使い方で弱いぼんやりとした言葉で優勝という強い言葉とはかけ離れています。しかし2023年の阪神タイガースは強かった。その強さとリンクしてアレは益々強力なメッセージとなりファンとの一体化ができ相乗効果で盛り上がりました。2010年に岡田監督がオリックス監督時代に使ったアレが日本シリーズでオリックスと対決とは、何かの因果でしょうか。岡田監督はもってますね。アレのアレ誠におめでとうございます。

球団もアレに引っ掛けて2023年のチームスローガンはA.R.E（エー・アール・イ）としました。個人・チームとして明確な目標（Aim）に向かって、野球というスポーツや諸先輩に対しての敬いの気持ち（Respect）を持って取り組み、個々がさらにパワーアップ（Empower）することで最高の結果を残していくというメッセージです。私はこの A.R.E のスローガンが好きです。特に R、日常生活においても敬いの気持ちは大切です。この気持ちがあれば争い事、恨み、嫉妬心など少なくなると思います。この A.R.E も浸透してもらいたいです。

大阪医科薬科大学医学部は2030年にアレします。

賢明な仁泉会の先生方はお分かりと思いますが、皆で多大なアレをして大阪医大がもっとアレになって仁泉会の先生方もアレになるよう祈念します。

認知症を考える

生野支部 支部長

医療法人穂翔会 村田高穂（学 22 期）

仁泉会会員の皆様には、お変わりなくご健勝の事と推察申し上げます。

小生昨年病院長を辞し、医療法人穂翔会理事長として病院管理業務に携わり、併せてひとりの医者として病院に隣接するクリニックで脳卒中生活期ケア診療を続けていますが、自身後期高齢を目前にして認知機能の弱化を感じるこの頃です。

我が国の百歳超人口が86,510人に達し（2021年）、また認知症人口は65歳以上の5.4人に一人と推定され、2025年には675万人に達すると予測されています。令和の日本医療は、このような高齢者と認知症に対するケア（医療と介護）が問題となることは確実です。ここでは、「認知症ケア」につき、最近のトピックスから私見を述べさせていただきます。

認知症に関する医学的研究が進み、今「認知症ケア」にあたる医療者と家族は、「一筋の光」を求める気持ちで新しい情報に期待を寄せている現状ですが、未だ決定的な予防策と治療法はありません。

皆様既にご存じのように、認知症にはアルツハイマー病（AD）、血管型認知症（VaD）、レビー小体型認知症（LBD）、前頭側頭型認知症（FTD）がありますが、中でもADは約60%を占め、65歳以上の発症率は約18%とされます。

最近の知見で、ADの発症と進行にアミロイドβが関与することが判明しました。

アミロイドβは、脳内で造られるたんぱく質の一種で、通常は適切に分解・排泄されていますが、病的状態では過剰なアミロイドβが融合し、排泄されず脳に蓄積します。この蓄積したアミロイドβにより脳内の神経細胞は変性を来し死滅し、脳委縮を生じ、結果として認知機能の低下を招きます。従って、認知症の進行過程における初期認知症（MCI）の病期における診断と治療が重要になり、重症のADの発症を減少できると考えられます。

2023年9月、我が国においても、日米の製薬会社が共同開発した新薬レカネマブ（LEQEMB）の臨床応用が承認されました。新薬レカネマブは、ADの原因物質とされるアミロイドβの排泄を促進させ、脳内のアミロイドβ量を減少させることで、AD初期段階での病状進行を防止すると考えられます。

決定的なAD治療策が無い現状では、早期発見と確定診断により適切な新薬による病状進行防止に努めることが推奨されます。

ADの発症予防の基本は、1）学習（とくに中高年以降の学習）、2）日常の運動であることは知られます。学習に伴う思考・記憶・判断など認知活動の低下と日常の運動不足は、アミロイドβの脳内蓄積を促進するとされています。

また、その他の「修正可能な特定の認知症危険因子」として、3）聴力障害、4）外傷性脳損傷（TBI）、5）高血圧、6）糖尿病、7）肥満、8）過度の飲酒、9）喫煙、10）うつ状態、11）社会的接触、12）大気汚染物質の関与が指摘されています（Lancet2020：396, 413-446.）。

しかしながら、これらの危険因子の修正をしても、絶対的な予防手段とはなり得ず、例え一部の初期ADに対する新薬療法が始まったとしても、認知症ケアの全体像は不透明なままです。

認知症ケアは、家族やキーパーソンに肉体的・精神的苦痛を与え、医療のみならず社会と行政を巻き込んだ深刻な問題を生み出します。従って、認知症ケアは、予防と初期段階での治療、進行の防止、重症例に対する介護といった医療と福祉を俯瞰する包括的ケア体制が必要であり、「人の生き様」に対するケアと捉えるべきと考えられます。

2023年11月

新春のご挨拶 —上り新幹線で富士山はどちらに見える?—

東住吉平野区支部 支部長

長谷川利雄（学 32 期）

新年明けましておめでとうございます。令和5年4月より仁泉会東住吉平野区支部の支部長を園谷昇先生（学

部21期）より引き継ぎました。よろしく願い申し上げます。

当支部の総会は平成10年以降開催されていませんでしたので、過去の資料を整理し支部の会員名簿と通帳の確認から仕事を開始しました。ようやくその作業も終了し、令和6年2月17日（土）に支部総会・懇親会を開催する運びとなりました。今後の支部の運営、会員の診療報酬改定への対応、中央情勢の報告などを協議・報告したいと考えています。規約上は仁泉会会員であっても支部に入会しないと支部総会への案内は行いませんので、入会をご希望の方は下記までご連絡いただけましたら幸いです。

（長谷川整形外科医院、thsgw@pj8.so-net.ne.jp

電話 06-6701-5815）

私は現在平野区にて整形外科を開業しつつ、日本臨床整形外科学会副理事長及び整形外科医政協議会副委員長を拝命して他学会や政府折衝など上京することが少なくありません。今年は診療報酬・介護・障害福祉の同時改定の年であり、厳しい折衝が展開されつつあります。国民の健康を守るために今こそ我々医師が団結して政府に対して声を上げなければなりません。

新春に因んだ富士山の話題：設問 1：東京行きの上り新幹線で富士山は（進行方向に向かって）左側のみに見える。2：同文-左右両側に見える。大半のお答えは1であろうと思います。しかし正解は2なのです。最近、東京行き上り新幹線の右側の窓際に座って景色を眺めているとなんと遠くに富士山が見えるではないか！一瞬当惑しましたが、直ぐにその富士山は視界から消えました。誰に伝えても信じてもらえませんでした。帰宅して家内にこのことを話しますと「疲れているのところがう」と不思議そうな顔をされました。

東京行きの上り新幹線で右側にも富士山が見える真相：ネットにて調べますとある区間で富士山が右にも見える現象があるらしいです。東京行きの上り新幹線が左に大きくカーブする掛川から静岡間のみにてこの現象が起こるようです。ただし、1. 天候に恵まれている、2. 空気が澄んでいる、3. 眠くなるはずの区間であるにもかかわらず覚醒していること、の3項目が条件となります。興味のある方はご確認下さい。https://toncafe.net/7679/

本年が皆様にとりまして良い年でありますよう祈念申し上げます。

卒後30年経って

住吉住之江支部 支部長
濱崎憲夫（学 42 期）

新年あけましておめでとうございます。

仁泉会員の皆様には、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

COVID-19をはじめとする感染症も落ち着いてきたなかで新春支部会を画策しております。今年こそ今までのうっ憤を晴らす華やかな会にしたいと思っております。

外来診療と併設高齢者施設（老人保健施設）での高齢者体調管理という2足の草鞋を履いた医師として15年以上がたちました。

大阪医大卒業後、救命救急病院で研修させていただき、プロ野球選手の次に憧れていた仕事に大きなやりがいを感じておりました。しかしある時、救命に成功した患者さんに外来通院でお会いしました。車椅子で通院されてきた患者さんと付き添う御家族に笑顔はありませんでした。後遺症によって介護が必要となり、老々介護の状態御家族の負担が非常に大きくなっていました。患者さんも御家族も救命後がもっと大変であることを思い知らされました。この出来事は感謝の言葉がいただけると思い込んでいた甘い自分には大きな衝撃でした。そのころから日常生活を介護でささえながら、医師としてかかわって最期まで一人の患者さんを診てみたいとの思いが強くなりました。時間に制限されている外来業務が終了後、施設で時間にとらわれず入所者のお話を伺い、診察させてもらうことは私の大好きな時間です。大阪医大学生時代に楽しんだ先輩後輩学友とつながりにも似た「医者と患者」ではなく「人と人」とのつながりを実感できるからだと思っています。

家族の介護、そして自身の介護 それは必ずやってきます。コロナ禍において僕自身両親の介護が急に発生して慌てました。医師として何の力にもなれず、ただ患者の家族として説明を受けた時の無力感と脱力感は忘れることができません。ほとんどの場合その日は突然にやってきます。両親の介護に当たる今になって、こんな準備をしておけばよかった、あの時こうしてあげたらと思うことが多々あります。どこかで自分の家族だけは、自分だけはという驕りがあったのでしょうか。介護保険も周知され、介護保険下における施設加療も幅が広がってきました。御本人御家族ご希望にて施設でお看取りさせてい

ただくことも多くなりました。最近は思い描いていた一人の患者さんを最後まで診させていただくという幸せな思いも経験しています。卒後30年となり、漠然としながらも少しずつ医師という仕事に就けて僕は幸せだと思うことが多くなってきました。今年のWBCでの日本代表チームの活躍や38年ぶりの阪神タイガースの日本一をみて、プロ野球選手になれなかった自分に若干の悔しさ悲しみはありますが、そこは大阪医大で培った positive thinking で乗り越えていきたいと思っています。

本日も施設で看取らせていただいた患者さんの娘さんが外来に来られました。

「今日からは私をお願いします!」と明るく言っていたその言葉に大きな責任を感じ、同時に厚い感謝の気持ちを抱えました。

末尾ながら新年を迎えまして益々の大阪医科薬科大学のご発展、そして仁泉会と会員の皆様のご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

高槻支部 支部長
保田 浩（学 31 期）

仁泉会の皆さま、新年あけましておめでとうございます。去年5月より新型コロナウイルス感染症の感染法上の取り扱いが5類となりました。それに伴い社会生活がコロナ前に戻りつつあります。高槻支部でも6月にたくさんのお来賓、会員を招いて総会・懇親会を執り行うことができました。

診療の小児科におきましては常に感染症が中心です。この1年は新型コロナウイルスとともにアデノウイルス感染症、溶連菌感染症などが、数年ぶりに大流行しました。この原稿を書いている12月もインフルエンザ感染症が大流行しています。A型の二種類が流行っているようで、一か月に二回罹患した児もいます。今後、B型がどうなるか心配ですね。

さて、日本では少子化の勢いが止まりません。首相が「異次元の少子化対策」と言っていますが時すでに遅いと感じております。将来推計人口では出生数が80万を割り込むのは2030年と見込まれていたのですが、実際2022年に出生数は77万人余りまで減少しました。合計特殊出生率は1.26です。婚姻件数も、コロナ前は年間60万組あったのがコロナで10万組程度減少しております。そして、母親となる女性の数は大きく減ってしまっ

います。出産の中心となる20～40歳の女性の数は2000年に2085万人いいましたが2025年には1569万人まで減少します。死亡者は2040年には約166万人となり、その後は毎年150万人になる見込みです。出生数は2040年には72万人になると言われています。少子化対策により出生率が1.8まで上昇したとしても、母親そのものの数が少なくなっているため、出生数が死亡数を上回ることは不可能です。残念ながら、ラストチャンスは2015年ころまでと思われ回帰不能点は過ぎております。しかし、子どもが育てやすい国づくりを進めることは重要であり、遠い将来でその努力が実ることを期待しております。

末筆になりましたが、仁泉会の皆さまの益々のご活躍、ご健康をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

さてどうなるか

東大阪市支部 支部長
大西洋一郎（学 25 期）

カティ・サークが大西洋 インド洋を雄飛していた時、オランダは結構イギリスといい勝負だったが。

think think と IBM が言っていた時、ビル・ゲイツの風下に立つとは思っていなかったインテルがAMDに苦戦しておいこまれるとは。

藤井聡太がAMDのCEOに直接、AMDのファンですと言うとは。

プーチンがウクライナに苦戦するとは、まさかね、すぐに終わると思っていた第一次世界大戦が『西部戦線異状なし』の長きにわたって続いていくとは。

いつになったらプーチンがあきらめて静かになることなることだろう。だがもし今のロシアがもとにもどるとしても、もう駄目だろうが、陸地をずっと接している習近平が侵蝕してきて取っていくだろう。さしづめウラジオストックが最初かな。まあ10年ぐらいは続いていくかな。

今年2023年のノーベル医学賞には驚いた。RNA関連で2人の外国人が選ばれたが、コロナワクチン関連だろうが、ヤマギワ、イチカワの件もあったことだし???がつくがどうだろうな。

ハマスとイスラエルが始めたが、ネタニヤフはこれは戦争だと叫んだが。近くの話で言ってもハマスを作ったのはモサドであるのにいろんな評論があるものではある。もちろんイランとかシリアとかロシアも深く関係しているであ

ろう。3体問題は解けないと言われてきたが、195体問題が解けることはないが。

えらいえらい仏様は『知らぬが仏』といったがどうかわからぬが・・・

中国では人間万事塞翁が馬と言うこともあるが、私としては日本は日本として朝日に向かって立ってくれたらなあと。

大阪医科薬科大学が未来に向かって今年もはばたくように。

2024 年元旦

謹賀新年

寝屋川支部 支部長
石田 徹（学 32 期）

あけましておめでとうございます。学部26期の山本祐三先生より寝屋川市支部長を引き継ぎました、学部32期の石田 徹と申します。新年のご挨拶として私の経歴を紹介させていただきます。

昭和58年に大阪医科大学を卒業し、堺 俊明教授が主催されていた神経精神医学教室に入局しました。人間の精神的な事柄に興味があったこと、自分自身がプライドの高さと実力のなさの狭間でもがき苦しんでいたことなどより、精神科を選びました。

当時は、精神科医は精神病院に勤めるのが一般的で、多くの病院で統合失調症の患者さんの治療を行っていましたが、統合失調症の難しさを実感しておりました。

臨床をすることに行き詰まりを感じ、5年目に大学院に入学し、大学院4年時に米国に留学する機会にも恵まれ、精神科で遺伝子を用いた実験をさせていただくことができました。大学に戻り研究を続け、学位も取ることができ、新阿武山病院、上野芝病院の勤務ののち、大阪府済生会茨木病院の精神神経科に非常勤で1年、常勤で5年勤め、総合病院精神科で勤める面白さを体験することができました。老人性痴呆疾患センターをしていたこともあり、40床のベッドはいつも満床でしたが、保険点数が低いため、一般病床にうつ病の患者さん入院していただき、点数を上げるよう精一杯努力し、月に9回当直するなど非常に忙しい毎日を過ごしていました。他科のドクターと交わるのはとても新鮮で、その時の交流は今も続いています。

そんな中で、病院の移転の話が持ち上がり、スペース

の問題で精神科病棟は廃止するというので退職することになり、平成13年に寝屋川市香里園でクリニックを開業しました。テナントを捜している時には「気狂いでっか、お断りです」などと言われたりもし、精神科クリニックで経営が成り立つのだろうかと思っていましたが、次第に患者さんも増え、今となっては、不眠の患者さんも気軽に来られるようになり、時代の移り変わりを感じています。寝屋川の同門の先生方は優しい方ばかりで、大阪医科大学の卒業生で良かったとつくづく思っています。

平成18年に、同級生とゴルフに行った時、健診は医師会で胃透視を受けているという、「あかんよ石田君、内視鏡検査を受けなさい」と言われ、実際受けたところ、王監督が胃がんとわかった時と同じ日に早期胃がんが見つかりました。私は少し長い夏休みをとって、大阪医科大学附属病院で内視鏡的粘膜切除術を受け、完治することができ、現在も仕事を行うことができています。

税理士が変わったのを機に、昨年9月よりクリニックを医療法人に改め、新たなスタートを切りました。早期発見早期治療をモットーに、健康に留意し、同門の先生方と和気藹々と交わりながら、地域医療に貢献していこうと思っています。

新春の御挨拶～京都仁泉会の2023年度活動報告

京都仁泉会会長
河野龍而（学 35 期）

仁泉会会員の皆様、明けましておめでとうございます。2023年5月13日にホテルオークラ京都にて京都仁泉会総会並びに講演会を完全対面形式で実施することができました。大阪医科薬科大学の内科学 II 講座の西川浩樹教授に「サルコペニア～脂肪肝との関連も含めて～」という演題で御講演を賜り、30名の会員が参加され懇親会も実施できました。8月27日には4年ぶりに「音楽の夕べ」を開催でき27名の会員が参加されました。11月18日には京都仁泉会学術講演会を開催し26名の会員が参加されました。大阪医科薬科大学麻酔科学教室教授兼病院長の南敏明教授に「最新の痛みの診断と治療」という演題で御講演を賜りました。講演して頂きました先生方、御参加頂きました会員の先生方にも心から感謝を申し上げます。対面での総会、懇親会、講演

会が開催でき、会員相互の親睦を図ることができました。また、宮地道弘先生（学18期）が救急医療功労者厚生大臣表彰、田代博先生（学23期）が赤ひげ功労賞、水谷均先生（学26期）が社会保険診療報酬支払基金関係功労者厚生大臣表彰を受賞されました。

新型コロナだけでなく米中対立、ウクライナ戦争、イスラエルとハマスの衝突など地政学的リスクが顕在化し、インフレ、金融システムの不安など未来の展望が描きづらい時代になりました。日本の少子高齢化は進み人口減少社会に入り、日本が誇る皆保険による医療制度も現状を維持できるとは思えません。京都仁泉会の今後の活動も展望が描きづらくなってきましたが、こんな時代だからこそ会員それぞれの立場・視点で知恵を出し合い、支え合い問題を解決していくことが必要だと考えております。変化に柔軟に対応しながら、次の世代に繋いでいくことも私たちに課せられた使命だと考えており、医療という狭い世界だけを考えては生き残っていくのは難しく、新しい気づきをもたらしてくれる異文化の人との交流も大事かと思えます。シニアの会員の先生方のご指導とご協力のもと将来の仁泉会を担う若い先生方に仁泉会の京都支部としての機能を継承していけるよう尽力させていただきます。

最後に、仁泉会のさらなる発展と皆様のご健康とご多幸を祈願し、私の新春のご挨拶とさせていただきます。



「高齢者の同窓会出席は認知症予防になる!？」

神戸支部 支部長
増井裕嗣（学 29 期）

新年あけましておめでとうございます。昨年の神戸支部活動としまして、1月に予定しておりました新年会をコロナ第8波による影響で急遽中止いたしました。しかし、7月8日の総会は5類に移行後のこともあって例年通り開催できました。学術講演に大西脳神経外科病院院長の学51期の大西宏之先生にお願いしたこともあり、今まで高齢の先生が多かった参加者の割合が老壯青のバランスがよくなってきた印象があります。今後も若い会員が参加しやすい工夫を試行していきたいと考えております。

2035年には我が国の85歳人口が1000万人を超えと言われていています。85歳を超えると5割の方が要介護状態になり、4割の方が認知症という統計が厚労省の国民生活調査に出ております。今までのように外来に来られることができない在宅療養患者が溢れるのは間違いありません。私が会長をしております神戸市西区医師会で在宅医療に関するアンケートを医師会員に実施したところ、約半数の86の医療機関から回答がありました。1/4の医療機関が継続的な訪問診療を実施し、1/4の医療機関がその時の状況に応じて往診をし、1/2の医療機関は訪問診療、往診共にしていないとの状況でした。西区医師会で在宅医療を実施している医療機関としない医療機関の間で訪問診療、往診の連携の在り方を検討しているところです。

昨年9月9日、久しぶりの学29期同窓会が高槻のホテルで開催され参加しました。同期の佐野学長によるスライドを用いての大学の今昔話で、各テーブルが大盛り上がり。昭和49年度の大阪医大の入試問題が回ってきて当時は英、数、国、理科2科目、社1科目の受験だったことなど懐かしい思い出が蘇り、2年後の神戸での再会を誓い合って散会しました。回想法は心理療法の一種で、グループを組んで自分の過去を話あうことで精神の安定が得られ、認知機能にも好影響を与えるとされています。私のような高齢者の同窓会への出席は正しく認知症対策と言えるでしょう。

本年が皆様にとって良き1年になることを祈念します。本年もどうかよろしく願いいたします。

新春のご挨拶

広島県支部 支部長
小野誠治（学 28 期）

あけましておめでとうございます。寒さ厳しい中、仁泉会の先生方いかがお過ごしでしょうか。若いころはよくスキーに行っていました。寒くなると積雪量を気にしていました。広島県の北部には、多くのスキー場があり、JR芸備線に乗ってスキーに行っていました。芸備線は、広島から岡山県の新見までの路線でその一部がJRの中で有数の赤字路線で、廃線が検討されているようです。乗ったことがある路線がなくなるのは、寂しいものです。現在は1両の気動車で運行されていますが、以前はグリーン車のついている急行列車（千鳥、帝釈）もありました。芸備線で思い出すのは、備後落合駅のうどんです。普通のうどんですが、おでんがのっており美味しかったな。今は備後落合駅は無人駅になり、うどんのお店もなくなりました。備後落合から木次線で少し行ったところに三井野原駅があり、この駅はゲレンデの中にあり、列車の中でスキー靴に履き替えて、駅に降りたらすぐにスキーをつけてスキーをしたことを思い出します。芸備線は山の中を走行し、景色はよく、スイッチバックもあります。広島県では数年前に可部線の一部と三江線が廃止になりました。過疎化が進み、仕方ないことかもしれませんが、寂しいものです。年頭から寂しい話題ですみません。

広島県支部では、コロナ騒動から活動をしていませんでしたが、少しずつ落ち着いてきているようなので、今年は支部総会を開催しようと思っています。よろしく願います。



新年のご挨拶を申し上げます —R5年度仁泉会 和歌山県支部総会報告—

**和歌山県支部 支部長
湯川裕史(学29期)**

新年あけましておめでとうございます。

昨年（R5）にはコロナが5類となり、ようやく日常生活もコロナ禍以前に戻りつつありますが、本稿をしたためています11月には、依然としたコロナ感染に加えてインフルエンザ感染拡大が叫ばれています。特に小生の現勤務先の老健施設ではまだまだ油断できず、手綱を緩める訳にはいきません。本稿が掲載される年明けには、どちらも沈静していることを切に願います。

さて仁泉会新春号への寄稿で皆さんに何を報告しようかと考えまして、例年投稿してきました仁泉会和歌山県支部総会の報告で、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

わが仁泉会和歌山県支部総会は、晩秋とはいえ異常に暑い気候をようやく乗り越えた11月11日（土）にアパローム紀の国で晴れやかに開催されました。コロナ禍で、R2、R3年度の総会は中止とし、R4年度は懇親会を控えての開催でしたので、今回は19名の会員の出席を頂き、ようやく以前と同様に久々の懇親の場を持ってました。さらに今回は、令和4年新年号に前支部長の田伏先生より報告されていましたが、大阪薬大との統合に伴った大阪薬大和歌山県支部「紀薬会」との交流の一環として、紀薬会役員3名の方にも出席いただきました。

総会ではまず、本年より支部長を拝命いたしました湯川（学29期）より挨拶をさせていただき、5/28の仁泉会総会の報告（webで参加）と、大阪薬大和歌山県同門会「紀薬会」との交流の件を含めまして今後の和歌山県支部の方向について話しました。

本年は3名の会員の方がご逝去されまして、一同で黙とうを捧げました。

総会議事では村上浩一先生（学32期）より庶務報告があり、会員の現状などの報告を頂きました。会計報告は塩崎憲先生（学42期）より頂き、吉田隆昭先生（学36期）に監査を頂きました。そして来年度の総会は令和6年11月9日（土）に決定されました。

会員の先生方の話題では、日赤和歌山医療センターで、吉田先生が副院長に、岡智子先生（学50期）が

血液内科部長に、松谷泰男先生（学37期）が乳腺外科部長にご就任されておられ、大いに活躍されています。また小林彩先生（学56期）のご開業も喜ばしい事です。

特別講演は松谷泰男先生より、「乳癌診療と遺伝子」というテーマで乳癌医療の歴史と遺伝子分析からの治療方針の現状など、日赤和歌山医療センターでの先進の業務についての話を伺いました。

いよいよ懇親会では前述の紀薬会の役員の方にもご参加いただき、古田浩太郎先生（学14期）の乾杯のご発声で、華々しく開宴しました。恒例の自己紹介では、それぞれの仕事の現状や体調などの近況報告に加えまして身近な時事ネタの報告も織り交ぜてのスピーチを順次頂きまして、久しぶりの懇親会のためか皆様からはかなりのハイテンションを感じました。

懇親会の締めは皆そろっての学歌斉唱。いまだ医科薬科大学の学歌は誰も知りませんので、今回も大阪医大の学歌としました。学生時代に思いを馳せているのか、一段とボルテージは上がります。

年に一度の総会懇親会とはいえ、ひとたび一堂に会せば身も心も一つになれるのは、同門会のすばらしいところと思いつつ、次年度も皆さんが変わりなくこの会に集まれることを祈念して中締めとしました。

仁泉会会員の皆様、本年も健やかに過ごしてください。

ご出席の先生方：（敬称略）

古田浩太郎（学14期）	藤田定則（学38期）
西岡昭規（学23期）	丸山晋佑（学41期）
橋本忠明（学25期）	木下博之（学41期）
向井龍一郎（学27期）	塩崎 憲（学42期）
湯川裕史（学29期）	津田祐子（学50期）
柳川百代（学31期）	瀧本真也（学51期）
松谷良清（学32期）	家田淳司（学53期）
村上浩一（学32期）	山本直之（学53期）
吉田隆昭（学36期）	片岩真依子（学54期）
松谷泰男（学37期）	平松政高（学55期）



後列左より 片岩、藤田、瀧本、平松、（紀薬会）（紀薬会）津田、木下、丸山、山本、塩崎、家田
前列左より 吉田、村上、（紀薬会）松谷（泰）、湯川、西岡、古田、橋本、柳川、松谷（良）

謹賀新年

**愛媛県支部 支部長
井関亮甫（学23期）**

仁泉会の皆様、明けましておめでとうございます。

令和5年11月18日（土）18時30分より例年どおり、料亭「いづみ」にてふぐのコース料理を食べながらの愛媛県支部総会を開催致しました。横山 剛先生（学15期）、長井新一郎先生（学18期）は都合が合わず欠席、私（学23期）、佐藤晴瑞先生（学28期）、本田光俊先生（学31期）、細田欣也先生（学44期）、佐々木淳子先生（学44期）、芦屋から熊野宏二先生（学39期）の6名にて約二時間の楽しい会話を楽しみました。ヒレ酒のお代わりをしながら、今年は、コロナ、インフルエンザ、インフレ等の社会情勢に話が及び、先ゆきを不安視する声も聞かれました。来年度は私が県支部

長を退き、佐藤先生にお願いすることで了承を得、再会を約してお開きとなりました。出席者の写真をご覧ください。



卒後50年の新年を迎えて

学部 23 期評議員

梶野興三（学 23 期）

新年、明けましておめでとうございます。

卒後50年、改めて歳月の経つ速さに驚きを感じます。私達は1968年4月に入学し1974年3月に卒業いたしました。学生時代を振り返ると、入学後の2年間は阪急京都線の南、沢良木町の教養学部で過ごし、3回生になって本館を中心とした専門学部で基礎医学と専門医学を学びました。教養学部は3階建ての小さな建物で、2クラスに分かれ、隣の高校から良く授業を覗かれていたような記憶があります。教養学部では英語だけでなく、ドイツ語、ラテン語もあり、また倫理学、哲学の授業もありました。勿論、生物学、化学、物理学等の講義もありましたが、教養学部が出来て数年目で、暗中模索の授業であったと思います。

当時は、日本経済の成長期でしたから1970年大阪万博があり、大学生活では多くのクラブ活動、親睦活動（ダンスパーティー、コンパ・飲み会）があり、そしてパチンコや麻雀などを大いに楽しみました。さて我々は団塊の世代で、入学した1968年には東大医学部紛争が始まり、その影響は我々の大学にも波及し、医学部処分問題や大学運営の民主化などの課題を巡り、教授会との団体交渉や授業放棄、学内封鎖なども経験しました。そして70年安保闘争、東大安田講堂事件、浅間山荘事件へと続き、まさに学生運動の真只中の医学生でもありました。

専門課程に進み、夜遅くまで解剖実習をした思い出があります。私は専門課程に入ってから生理学教室に出入りしていましたので、教室の先輩から各科の授業内容や試験情報を教えてもらって多に助かりました。そして医師国家試験はグループを作って勉強し、50年経った今でもそのメンバーとは機会を作り食事会を楽しんでいます。学生時代を今から思えば、長いようで短い時代でしたが、その6年間は心の奥にはっきりと記憶しております。

さて、卒業後私は泌尿器科教室で3年間臨床医として過ごし、その後本学第2生理学教室に移り、腎臓生理学で1981年に学位を取りました。そして、腎臓生理学の知識を血液透析に生かしたいと、1985年4月に京阪枚方公園にクリニックを開設しました。そして、2017年10月まで約32年間血液透析専門医として従事しまし

た。その間、お世話になった数多くの方々には心より感謝しております。

卒業後50年を振り返ると誠に多くの事が思い起こされます。「生老病死」と密着した医業を生業として、多くのものを得、多くのものを失いました。そして、「目に見えぬものの大切さ」を日々実感しております。後期高齢者となった今は一日でも長く心ゆたかな毎日が送れる様にと願っております。

天辺の尺取空を持って余す 興三

さて、最後に大事なお知らせがあります。昨年の秋、第82回49杯ゴルフ（別記事参照）を行いました。参加者協議の上、本年10月12日（土）グランピア京都ホテルにて卒後50周年同窓会を行なう事になりました。再度、ご案内をいたしますが、今からは非予定に入れておいて下さい。新春吉報第一号です。大いに楽しみましょう！

新春のご挨拶 （当クリニックにおける活動状況）

学部 43 期評議員

黒川晃夫（学 43 期）

新年明けましておめでとうございます。令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の位置づけが2類相当から5類に引き下げられましたが、依然として感染対策が必要な状況が続いています。

COVID-19 関連性の皮膚疾患には、蕁麻疹様紅斑、凍瘡様皮疹などがあります。また、COVID-19 ワクチン接種に伴う帯状疱疹、円形脱毛症の発生や、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬などの皮疹悪化例、マスクによる尋常性痤瘡が報告されており、COVID-19 は皮膚科領域にも多大なる影響をおよぼしています。

アトピー性皮膚炎は、2020年4月の開院日に比べ、治療の幅が飛躍的に拡大しました。2018年4月、デュピクセント皮下注を嚆矢とし、2020年から2021年にかけて、内服JAK阻害薬オルミエント、リンゾック、サイバインコが次々と認可されました。2022年8月ミチーガ皮下注（既存治療で効果不十分な痒みに対し適応）が、2023年9月、アドラーザ皮下注が販売されました。現在、デュピクセント皮下注は結節性痒疹に対し追加適応、

ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思います。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
- 広告に関して

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

（内容により有料の場合があります）

事務局編集係



学会報告 ● ● ●

日本脊椎関節炎学会 第33回学術集会を終えて

文責／第33回学術集会会長 岡本奈美（学47期）
（独立行政法人労働者健康安全機構 大阪ろうさい
病院 小児科 部長／大阪医科薬科大学医学部医
学科 小児科学 非常勤講師）

この度は仁泉会様から、学術集会開催に当たり助成を賜り、誠にありがとうございました。お陰様を持ちまして、無事盛会裏に終了いたしましたためご報告ならびに厚く御礼申し上げます。

日本脊椎関節炎学会第33回学術集会は、2023年9月9日～10日に神戸市に於いて開催いたしました。会場は今年、仁泉会神戸支部（わたくしも居住地会員です）集会が開かれた北野プラザ六甲荘で、浅からぬご縁を感じます。本学会としては4年ぶりの完全現地開催の学術集会であり、前日まで天候を心配してハラハラおりましたが、



図2：会場の北野プラザ六甲荘 会場は三宮駅と新神戸駅の真ん中に位置し、有名な北野の異人館街のすぐそばと、大変便のいい場所でした。料理も美味しく、参加者の評判も上々でした。

幸い台風も逸れて両日とも爽やかな秋晴れとなりました。海外演者を除き座長・演者の先生方には無事全員現地にお越しいただくことができ、参加者も WEB 含めておよそ390人と、単独開催としては過去最高人数を達成しました。日本乾癬学会様との合同開催であった昨年より10人ほど少ない会でしたが、若手・多方面の方のご参加が多く、ニッチな分野ではあるものの非常に勢いのある学会であることを再認識致しました。講演・セミナー・一般演題口演はライブ配信も行いましたが、会場はほぼ満席で、共催セミナーでご用意したお弁当もほとんど残らず！



図1：学会ポスター 皆が集まって学術の話題に花を咲かせる森に、雲の合間から清らかな光が差しこみ、若手が龍となって成長していく、そんな2日間になることを祈ってポスターを作成しました。写真は会場近くの布引の滝からの神戸の風景で、私のペットの猫たちが会の成功を祈ってくれています。



図3：コングレバック 気合を入れて作成したコングレバックはマチの広い保冷バッグで、学会終了後も使用して頂ける作りになっています。兵庫県の観光パンフレットとアルコールジェルもお配りしました。



図4：入口の看板 記念に持って帰ればよかったと、後で気づきました。

というくらいの盛況ぶりでした。従来の学会の楽しさやワクワク感を取り戻したい、それを経験したことのない若手に、現地開催学会の醍醐味を満喫してもらいたいという私の狙いは十二分に達成できたと感じています。

これをお読みいただいている会員の先生方は、「整形っぽい学会なのになんで小児科医が会長？」と不思議に思われたかもしれませんので、ここで本学会について少し説明させていただきます。脊椎関節炎とは、脊椎～仙腸関節（体軸）およびその周囲に関節炎・附着部炎を来す疾患群の事で、強直性脊椎炎（国試勉強で“bamboo spine”と習ったあの疾患です）、乾癬性関節炎、クローン病など炎症性腸疾患に伴う関節炎、反応性関節炎などが含まれます。学会ではSAPHO症候群など関連疾患の研究発表も行われており、会員の所属は内科・整形外科・皮膚科・放射線科・小児科など多彩で、分野を超えた闊達な学術交流が行われている学術団体です。1989年10月に前身である「日本AS研究会」が発足し、2003年に「日本脊椎関節炎研究会」、2010年からは「日本脊椎関節炎学会」と名称変更され、厚生労働省の難治性疾患政策研究班とも共同しながら疾患の研究・啓発・標準的な診療体制の整備に携わってきました。わたくしは第30回の秋岡親司先生に続き二人目の小児科医の大会長なのですが、脊椎関節炎は本邦疫学調査によると約6%が20歳未満で発症する若年発症疾患です。その為、発症時期に関わることの多い小児科医の先生方



図5：開会のあいさつ この日ばかりは緊張して読み原稿を用意しました。ありがたい事に、開会式から会場は満員でした。



図6：第一会場 初の試み「その4」として year in review を行いました。最近では1年に出る論文数が膨大であり、皆様の知識の整理になったと思います。



図7：海外演者 米国における乾癬性関節炎研究の第一人者である Alexis Ogdie-Beatty (Hospital of the University of Pennsylvania, University of Pennsylvania School of Medicine) 先生にご講演（同時通訳付き）をいただきました。残念ながらリモート参加ではございましたが、最新のガイドラインの内容をご説明頂ける貴重な機会となりました。

にはぜひとも知っておいて頂きたい疾患であり、啓発の意味も込めて大会長に選出して頂きました。ただでさえ、心身ともに大きな変化を迎える成長期の小児が、慢性疾患を抱えて治療と向かい合う事は大きな困難を感じる事があります。小児科医は子どもの総合診療医で、オーケストラのマエストロのような役割があります。「成長」という豊かな森の中で、縦の糸と横の糸を滑らかに織り上げていく小児科医の役割は大きいのです。今回は初の試み「その1」としてプログラム編集委員会を立ち上げ、多彩な魅力あるプログラム構成に仕上げる事ができました。



図8：ポスター会場 熱心な議論が行われるのも、勢いのあるこの学会ならではの。



図9：玉井名誉教授と 前小児科教授でいらっしやいます玉井浩先生に会場にお越しいただき、懇親会でもご挨拶頂きました。やんちゃな研修医時代からずっと私の成長を温かく見守ってご指導いただいた先生に晴れ姿を見て頂く事ができ、光栄でした。



図10：懇親会来賓あいさつ 現在の勤務先である大阪ろうさい病院院長の楽木宏美先生（大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学名誉教授）にご挨拶と激励のお言葉を頂きました。

テーマである「開雲見日」とは、暗雲が吹き払われ、再び光明や希望を見出すことや、疑惑や誤解が解けることを表わすことばです。医療の進歩、研究の発展、治療薬の革新、疾患教育や疾患啓発、診療科連携など、脊椎関節炎診療がさらに発展する事を祈って掲げました。2020年初頭に始まったパンデミックは長く我々の生活や健康を脅かし続けています。医学界においても大きな影響を与え、「フロアからの活発な質問」がない学術集会はとても寂しいものとなりました。若手の医師は「リアルで学会というものに参加したことがない」と話しており、是非この学会は「昔の学会」を再現し、現地参加の肌感覚や著名な先生方との交流などを通じて「学会って楽しいな、得るものがたくさんあったな」という経験をして頂きたいと願ってテーマにいたしました。また、若手が成長する姿を天に昇る龍に見立てて、初の試み「その2」として「若手優秀演題賞～ dragon award～」を設け、こちらも大成功となりました。リモート参加という技術を得て、以前より敷居低く海外演者をお呼びすることも出来、新旧の良さを取り入れた学術集会にすることができました。また、初の試み「その3」として、SNSでの告知ならびに市民公開講座をオンデマンド配信致しました。まだまだ未診断例が多いとされる本疾患群において、少しでも疾患啓発が早期診断・早期治療に繋がればと思っております。

写真にあるように、初日は成人式の振袖を着用して会

長挨拶を致しました。松竹梅があしらわれた縁起のいい文様で一目ぼれしたお生地ですが、当時呉服屋さんには私が医学部生であることを気にされていました。天邪鬼な私はむしろ面白がって、「藪が藪を着てる」と言われないよう自らの気持ちを引き締めるつもりで選びました。今回、「初心に返る」という気持ちと、「患者さんの脊椎を“竹節様”にしないぞ」という決意を込めて再び袖を通しました。既婚者ではありませんが、晴れの舞台という事でご容赦ください。

最後になりますが、ご参加・協賛いただいた皆様、プログラム編集委員の先生方、演者・座長の先生方、共催関係各位、会場スタッフの先生方、そして助成金を頂きました一般社団法人大阪医科薬科大学仁泉会の先生方には心より深謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



図11：演奏会 大阪ろうさい病院のご近所でビオラ教室を主宰されております奥 幸代様、バイオリン奏者の由利美佐子様、バグパイパーの岡部 寛様に素敵な演奏をご披露頂き、とても格調高く会を盛り上げて頂きました。この後、「会長クイズ」として前後3大会の会長に関するクイズ大会を行い、ささやかな兵庫県の県産品をプレゼント致しました。いないだろうな、と思っていた全問正解者がなんと3人も！（少なくとも1問は私の家族でないと答えられないくらいマニアックな質問でしたが）おられて、熱心な私のファン?!であられたかもしれません（笑）。

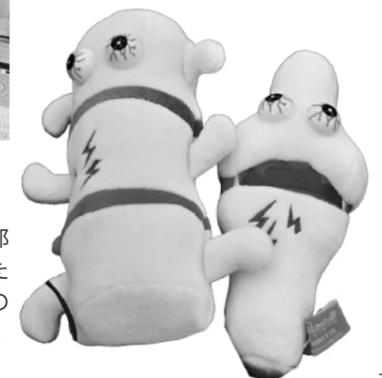


図12：閉会記念撮影 左から杉田侑子先生（大学小児科助教）、高好紘輝先生（大阪ろうさい病院研修医）、岡本、大関ゆか先生（開業）、謝花幸祐先生（第一東和会小児科部長）。4名の先生には2日間会場スタッフとしてお手伝い頂きました。



図13：1日目会場スタッフ 左から町原功実先生（大阪ろうさい病院小児科医員）、高好紘輝先生、川村尚久先生（大阪ろうさい病院感染症科部長）、岡本。町原先生・川村先生には初日に会場スタッフとしてお手伝いいただきました。川村先生（前小児科部長）には学会運営に関するアドバイスを多数頂きました（阪神38年ぶり日本一おめでとうございませぬ）。

図14：back pain & arthritis 脊椎関節炎では炎症性腰部痛（inflammatory back pain）が特徴的です。米国から取り寄せた2つのぬいぐるみを座長・演者席に配置し、dragon awardの副賞にも致しましたが、欧米での本疾患認知の高さに驚きます。



支部だより ●●●●

仁泉会阿倍野支部総会の報告

文責／阿倍野支部 支部長 福本敏子(学24期)

令和5年10月28日(土)午後5時からシェラトン都ホテル大阪において仁泉会阿倍野支部総会ならびに懇親会を開催しましたので、ご報告させていただきます。

当日は支部会員15名が集いました。

まず、5時から伊賀千洋先生の司会で総会が始まりました。文殊敏郎先生から開会に際し、挨拶を頂戴いたしました。久しぶりの対面開催で大変嬉しく思うとお言葉をいただきました。その後、今年8月にご逝去された高木力先生に対する黙祷を捧げ、会長挨拶(福本)に続き、総会議事を開始しました。会計収支決算の承認をいただいた後、高木先生の後任の監事として森田眞照先生を満場一致で承認いたしました。次年度の事業計画も決定し、阿倍野区医師会報告を二村吉継先生から、大阪鉄道病院報告を熊谷広治先生から報告していただきました。総会も無事に終了し、恒例のコンサートに移りました。



文殊敏郎先生の曲目

- ・ Tea for Two
- ・ 星に願いを
- ・ Fly me to the Moon



今回は文殊敏郎先生によるジャズピアノ演奏と二村吉継先生と鈴木倫雄先生による歌とギター演奏でした。3人の先生方は皆様、大阪医科大学軽音楽部OBであられますが、文殊先生はリタイア後にピアノ演奏を始められたとのことでしたが、暗譜で有名な3曲をご披露くださいました。二村先生と鈴木先生はギターとヴォーカルで会場中を盛り上げてくださいました。コンサートが始まると総会の堅苦しい雰囲気は一気に和らぎ会場中が一つになりました。



二村吉継先生と鈴木倫雄先生の曲目

- ・ Blackbird / Beatles
- ・ Norwegian Wood / Beatles
- ・ Desperado / Eagles
- ・ 鼻出血のブルース / Yoshitugu Nimura



コンサートに続き、懇親会に移りましたが、森田新監事の乾杯のご発声で懇親会は始まりました。会員の皆様には、一人ずつ近況報告をしていただき、普段お目にかかれない仲間が頑張っている様子に元気をいただきました。参加者最年長の文殊先生からは、いつまでも老いず元気であるために先生が普段心がけている秘訣をお伺いしました。認知予防にはインプットとアウトプットのバランスが大切であり、そのために①人との会話を心がける ②趣味に集中する ③美味しいものをいただく ④毎日しっかり歩くように頑張っておられるとの事でした。その実践の一

つとしてピアノ演奏とゴルフのラウンドも続けておられるそうです。そこで来期は阿倍野支部もゴルフコンペを始めようかという話になりました。会員の平均年齢も上がっていることから、取り敢えずはゴルフの腕前より、仲良く一緒に歩くことを目的に始めてみたいと思います。また、顛末を報告させていただきます。

アルコールも入り、わいわいがやがやと楽しく過ごす内にお開きの時間となり、大阪医科大学学歌斉唱の後、岡成樹先生から閉会の挨拶があり恒例の記念撮影の後、散会いたしました。



後列左より、鈴木、二村、西口、熊谷、岡(民)、岡(成)、中野、森田(利)
前列左より、清水、長田、伊賀、橋本、文珠、森田(真)、井上(敬称略)

支部だより ●●●●

2023（令和5）年度 淀川区支部会開催

文責／淀川区支部 支部長 熊野宏二（学39期）

令和5年10月28日（土）にホテル阪急インターナショナルにて大阪市淀川区支部会を開催しました。淀川区支部会は長年休会状態にありましたが、当日は開業医の先生方だけでなく、淀川区内の医療機関で常勤・非常勤として御活躍されている勤務医の先生方にも御参加して頂きました。



参加者:(敬称略)

- 飯田紀彦 (学20期)
- 中川浩彰 (学32期)
- 安田守孝 (学34期)
- 熊野宏二 (学39期)
- 小森 剛 (学39期)
- 谷口万紀子 (学39期)
- 熊野久美子 (学40期)
- 星 穰 (学42期)
- 岡田健一郎 (学45期)
- 増田大介 (学47期)
- 清水宏泰 (学48期)
- 田原真由子 (学58期)

飯田紀彦先生より開会と乾杯の御挨拶を頂き、御出席の先生方にお一人ずつ、学生時代の思い出や卒業後の進路等をお話して頂きました。

約2時間の会でしたが、あっという間に時間は過ぎ、中川浩彰先生、安田守孝先生に閉会のお言葉を頂き、全員で集合写真を撮り散会となりました。

今後も毎年10月の第4土曜日に淀川区支部会を開催する予定です。多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、久しぶりの支部会開催にあたり御指導を賜りました、仁泉会大阪府支部連合会会長 霜野良一先生、仁泉会事務局長 天野公博様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

支部だより ●●●●

令和5年度仁泉会三重県支部 総会の報告

文責／三重県支部 支部長 子日光雄(学25期)

令和5年度の仁泉会三重県支部総会は、令和5年10月15日の日曜日秋空のもと、近鉄津駅前ホテルグリーンパーク津で開催されました。

三重県支部総会は、県単独で行われるのは、2年に一回、その間に一度、愛知県・岐阜県・三重県の3県合同の支部総会「新三水会」が開催されます。

コロナ禍で途絶えていたため久しぶりの仁泉会三重県支部総会で、盛大に開催できましたと報告したいところですが、三重県の会員の出席が4名と少なく、出席していただく仁泉会安藤理事長・大森副理事長・講師の麻酔科教授南先生（現大阪医大病院長）に申し訳なく思っています。

総会は、三重県支部長の開会の挨拶の後、山本栄先生を偲んで黙とうを捧げ、出席を賜った先生方の紹介の後、本学病院長の南先生から「大阪医科薬科大学病院の現況と痛みのお話」と題した講演を拝聴しました。



内容のほんの一部を報告しますと、大学の西側に道路を隔てて中央手術棟が完成し、新本館A棟開院、さらに三島救急病院で行われていた救急医療が本学に開設された救命救急センターで始まったことに加え、2027年は大阪医大開学100周年を迎えることも報告されました。

ご講演の本題である「痛み」については、侵害受容性疼痛・神経障害性疼痛・痛覚変調性疼痛があり、症例を交えながら詳しく、機序・治療法等を教えてくださいました。特に帯状疱疹による神経障害性疼痛は、教授ご自身の体験に基づいており、拝聴する我々にも痛みが伴うほど充実した内容でした。2019年より蔓延したコロナ感染症では、特に50歳以上の感染者は抵抗性が低下しているため、帯状疱疹に罹患しやすく、帯状疱疹ワクチン接種が重要であると説かれました。

最後に歩くことの重要性について言及され、1日の歩数が多ければ死亡リスクは減少するが、7500歩でプラトーになるというデータも興味深いお話でした。

講演終了後は、矢津先生の乾杯の発声の音頭で懇親会が始まり、談論風発の中で大いに盛り上がり、2時間があっという間に過ぎてしまいました。予定の校歌斉唱は省略となりましたが、中島先生の閉会の挨拶があり、来年岐阜で行われる「新三水会」での再会を約束して散会となりました。

クラス会だより

八起会（学八 昭和34年卒） 総会報告

文責／柘岡 進 常任幹事（学8期）

2023年11月12日（日）に新阪急ホテルにて八起会総会を開催しました。

卒業時の会員は61名でしたが、全員が90歳前後でありますので現時点での生存会員は22名です。しかもご本人の歩行障害或いは奥様の看護のために総会の参加が出来ない方が多く、今回の総会出席者は会員6名、婦人1名でした。

物故者の冥福を祈った黙祷に始まり、ちょうど本日が誕生日であった藤田義昭君に対して「Happy Birthday」を歌って92回目のお祝いをしました。

その後、新しく作られた大阪医科薬科大学の学歌を拝聴しましたが、全員、初めて聴く学歌になじまず、矢

張り、長年唄ってきた「暁映ゆる東の・・・」が最高であることを再認識した次第です。

八起会の評議員である佐々木進次郎君から大学情報を伺い、なかでも大阪医大出身の多数の後輩たちが国立大学を始め数多くの大学の教授に就任された事実を知り、我々の時代とは隔世の感があることを痛感しました。

遠路 金沢から参加してくれました藤田邦彦君の発声による乾杯で宴会が始まり、新阪急ホテルのご好意で老人用に作って頂いた「量より質」の和洋折衷料理を味わいながら昔話に花が咲き、あっという間に予定の2時間が経過して散会となりました。

なお、参加者全員の意思で、正式の八起会総会の開催は今回を最後とし、次回からは有志のみで集まることにしました。

来年・再来年の11月の第二土曜日に、お元気にお過ごしであろう多くの八起会会員が集まってくださることを御願ひ致します。



前列左より 佐々木進次郎君、宮本一君、宮本陽子夫人
後列左より 藤田義昭君、柘岡進君、野澤真澄君、藤田邦彦君

クラス会だより

ゴルフ49杯

文責／竹中正純（学23期）

私の外来での一コマです。相手は、いかにもスポーツ好きといった青年。

私 「昔は何かスポーツをしていましたか？」

青年「はい、学生時代に野球をしていました」

私 「じゃあゴルフはするの？」

青年「いえ、ゴルフはしないです」

私 「えー、ゴルフしないの？」

それじゃあ何のためにうまれてきたの。

ゴルフをしないで人生を終えるつもり？」

青年「えー、ゴルフってそんな面白いんですか？」

私 「当たり前や。

ゴルフほど良いもの世の中にないよ」

独善的な言葉を吐いてしまいました。これも多くの若者にゴルフをして頂きたい一心からでたものです。と言うことで、飯の次にゴルフが好きという9名が集まりました。歴史と伝統、風格を備えた兵庫県芦屋カントリーで11月4日に49杯を開催しました。

成績は、1位 竹中正純（44、46グロス90）、2位 山本茂（48、46グロス94）、3位 井関亮介（49、45グロス94）でした。



下記は、今回集まった9名の私なりの寸評です。

明石君 : 49杯の実力ナンバーワン。

今回もベストグロス88。ニアピン獲得。

井関君 : 病院経営多忙の中四国から泊まりで参加。

40台を揃える。流石。

梶野君 : スイング良いも成績に結びつかず。

俳句、ヨットと趣味多彩。

梶野夫人: グロス102とあと一步で100切り。

俳人。文武両道。

近藤君 : 芦屋カントリーのメンバー。今回大変お世話

になりました。前回の優勝者。

櫻本君 : ダイエットに成功し若さ取り戻す。

体の回転が少し不十分。

竹中 : 1番10番でチップインバーディー。

ラッキーでした。

中田君 : 時々シングル並みのショット。

バンカーが問題でした。

山本君 : 元野球部だけあり美スイング。ドラコン獲得。

最後に、最近少し心に残った言葉を紹介します。NHK朝ドラ「らんまん」の主人公になった牧野富太郎博士の言葉です。当時、平均寿命63~64歳のなか94歳まで長寿。

『やりたいことだけして、長生きする』

次回5月に第83回の49杯を行う予定です。ご参加お待ちしております。

クラス会だより

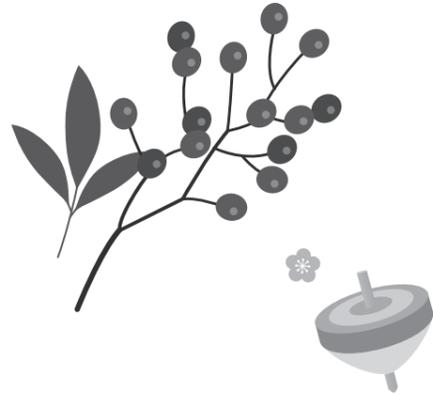
学部25期生（昭和51年卒） 同窓会開催報告

文責／石原 正（学25期）

コロナ禍で永らく順延されていた同窓会が5年半振りに令和5年10月、京都四条大橋畔、東華菜館にて開催されました。

当日は紅葉が始まった東山連山を借景にますます多くの38名が出席し、懐かしい学生時代の思い出と共に、今、正に直面している後継者問題や引退時期、健康状態などの話題で瞬く間に予定の時間を迎えました。

今回は卒後50年、2025年節目の年に大阪地区の諸君のお世話で再会することとなりました。



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

クラス会だより

平成10年卒（学47期） 卒後25周年記念同窓会

文責／平野 一（学47期）

令和5年10月14日、ヒルトン大阪にて平成10年卒（学47期）同窓会、卒後25周年記念同窓会を行いました。前回より約5年ぶりの開催となりました。

一次会は47名の参加となりました。福島、東京、山口と遠方からも多数ご参加いただき、感謝しております。

18時より幹事平野の挨拶の後、次期幹事の内田亮君の乾杯の発声で同窓会が始まりました。前回は5年前と、久しぶりの開催でしたが、みな楽しく歓談し大いに盛り上がりました。会の終盤では、1人1分の時間制限で、全員に近況報告をして頂きました。やむを得ず欠席された方からいただいたメッセージは、全て幹事より代読のうえご紹介させて頂きました。会の終了前には、参加者全員での記念撮影を行いました。その後の二次会でも35名が参加、楽しくもあつという間の有意義な一時を過ごすことができました。

みなそれぞれの分野で活躍していて、大変良い刺激をもらえました。やはりお互いに利害関係もなく、気を遣わず話せるのが同級生の良いところです。次回同窓会まで健康で、またお会いできることを楽しみにしています。今回参加できなかった方々の御出席も期待しております。みなさんありがとうございました。



参加者(敬称略):

安倍弘和
稲元輝生
井上洋人
上村直樹
内田 亮
江富朋彦
遠藤由紀子
大内宏之
大室智士
岡本貴子
奥田信昭
金綱規夫
金光大石
菊地奈穂子
清野智恵子
吉良貞昭
桑田すずえ
齋藤陽子
澤木秀明
高瀬 泉
竹谷味恵
田村滋規
蔡 栄美
辻雄一郎

鄭 聡柄
鄭 充康
中部奈美
西原賢太郎
納田真也
野々口直樹
原田文植
平岡やよい
平野 一
藤阪保仁
藤田今日子
藤本陽子
堀 宏成
本庄正朋
増田大介
松井雅裕
丸一みどり
水谷卓雄
峰晴昭仁
向井規子
柳川哲司
吉川聡介
吉村静宜
渡邊 久

仁泉ひろば

jinsen-park

バドミントン部OB/OG総会開催報告

文責/神吉佐智子 (学48期)

夏の厳しい暑さが少し落ち着いた9月23日にバドミントン部OB,OG総会を開催いたしました。歴代部長の本学名誉教授の古谷 榮助先生と林 秀行先生にもご参加いただき、医学部・看護学部学生34名、卒業生44名の合計80名が集まりました。遠方からの参加を見込み、学生の夏休み期間を避けた結果、シルバーウィーク中の祝日の土曜日に新大阪駅前のホテルメルパルク大阪で開催しました。私鉄の急な運休には驚きましたが、ほぼ全員が定刻に着席されました。まず初めに川西昌浩先生(学37期)によるバドミントン部新歓恒例の作法に則った自己紹介の後、今回の総会発起の経緯をお話いただきました。続いて初代キャプテンの一ノ名正先生(学31期)に開会宣言をいただいた後、古谷先生と林先生からごあいさつのお言葉をいただきました。瀬木治郎先生(学31期)の乾杯のご発声で華やかにお食事会が始まりました。世代間交流を促進するため、各テーブルは学生と卒業生に同席いただきました。親子ほど年が離れていても、大学の先輩・後輩であり、バドミントン部の共通項があります。OB,OGは懐かしいメンバーと共に後輩と話すことですっかり忘れていたクラブのことがどんどん思い出されたと思います。おいしいフルコースのお料理が進む中、加藤宗寛(学33期)に司会を交代し、全学生の自己紹介が始まりました。川西先生の実例に倣った自己紹介の作法は若い世代に引き継がれました。盛り上

がったムードの中、今年の西体後に幹部となった3年生から、クラブの活動、特に公式試合での戦績について報告がありました。幹部はCOVID19中の2021年に入学した学年です。大学のCOVID19感染対策の方針でクラブ活動ができない状態が長かったことや、大会の規模縮小の影響で公式リーグが開催できていなかったことがわかりました。COVID19禍中は玉置淳子部長のご指導を仰ぎながら、おそらく先輩に相談したり部員で話し合っ、制限された中でも、部員を増やしながらクラブを維持してくれていました。病院内での感染蔓延防止のため学生生活は制限されていました。私たちが楽しんだ大学生活もかなり様相が異なったことと推察されます。このようなクラブの総会が開催できることを嬉しく思いました。その後、山田 誠先生(学46期)からは、一ノ名先生に始まり医学部3年生の岡本君に至る歴代キャプテンの名前の読み上げがあり、バドミントン部の歴史と縦と横の繋がりを感ずることができました。山田先生は幹事として、5年後の50周年総会の開催案内がOB,OG全員に伝わるようメールアドレスのご確認とメールへの返信をお願いされました。最後に村尾浩先生(学37期)から現役部員に対して試合で勝つための練習の心得を込めた力強いメッセージが送られました。

いよいよ、バドミントン部は5年後に創部50周年を迎えます。記念総会は2028年9月22日(祝日、金曜日)に新大阪で開催する予定です。まずは現役バドミントン部員が益々活躍できるよう皆様のご支援をお願いいたします。さらに、当日はOB,OGがシャトルを打つ機会を作りたいと思いますので、皆様の体力維持と自主練もお願いいたします。最後になりましたが、今回お世話になったホテルメルパルク大阪の皆様、仁泉会事務局の皆様、裏方のお仕事をお手伝いいただいた皆様、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



バドミントン部 ホームページとメールアドレスのお知らせ

ホームページ <https://omc-badminton.jimdo.com>

Google や Yahoo、Edge などの検索窓に「大阪医大、バド、翔友会」を入力して検索してください。ブックマークをお願いします。

メールアドレス omc-badminton@jinsenkai.net

皆様のメールアドレスが変わった時などは上記メールアドレスの翔友会(バドミントン部OB,OG会)事務局までご連絡下さい。



仁泉ひろば

jinsen-park

大阪医科薬科大学軽音楽部
60周年記念パーティー報告

文責／二村吉継 (学49期)

大阪医科大学軽音楽部が発足したのは1960年、ビートルズもまだデビューしていない頃のことです。高度成長期を迎える少し前に創部した軽音楽部には音楽が好きな学生が集まり楽器を持ち寄り演奏し歌ってきました。コロナ禍で本来は2020年に行われる予定であった60周年記念パーティーは3年間延期となりましたが、2023年10月14日(土曜日) MUSIC SQUARE 1624 TENJINにて行われました。

まず会の開始にあたり、前キャプテンの上田君(医学部4年)の司会で亡くなられた先輩方への黙祷が捧げられました。開会に際し本学輸血室特務教授 河野先生(学41期)の挨拶、勝本先生(学23期)の乾杯と続きました。

軽音楽部のパーティーはいつも音楽と共にあり、ここから演奏が始まります。

まずは現役軽音楽部生による演奏です(Gt./Vo. 酒井君(4年) Gt. 上田君(4年) Ba. 市川さん(3年) Dr. 飯居さん(3年)。現役生によるバンド演奏のスタイルはPCを駆使してボカロを使って音楽が創作できる時代にあってもドラム、ベース、ギター、ボーカルで合奏する形式は我々OBが行ってきたものほとんど変わることがなく、安心感がありました。続いて芦邊先生(学68期)によるアコースティックギターによる弾き語りです。

次にOBによる思い出話が始まりました。軽音楽部長の星賀先生(学34期)からスタートです。軽音楽部の歴史の長さのエピソードとして創部は星賀先生の生まれ年であるということでした。続いて河野先生(学41期)、私二村(学49期)、成田先生(学44期)、石崎先生(学45期)の順でそれぞれの学生時代の思い出を共に過ごした旧友の先生方も壇上に上がり語られました。口を揃えてみなさんが言われることは新入生の頃、先輩の奏でる音楽に驚き自分も上手になりたいという情熱があったということです。あるいは異性にモテたいという邪な若者独特のエネルギーもあったにせよ、音楽に感動して表現したいという気持ちで練習に励んできたということはOBも学生

も普遍の事柄でした。その共通した思いが見事に歴史となって繋がっているということを舞台上のお話に感じたのでした。

軽音楽部の思い出は2022年に取り壊されたクラブハウスの歴史でもありました。学生運動の頃の名残も残っていた歴史のあるクラブハウスですが、耐震規制から残念ながら取り壊しになり部室は移転しましたが、本当に多くのOBが学生時代をここで過ごし忘れられない一生の思い出を作ったことはここに記しておきたいことです。

一方で音楽を演奏することは私たちにとって不可欠でしたが、漏れる音は部外の方々にとっては騒音に過ぎません。時代とともにコンプライアンスが厳格に求められ、周りに迷惑をかけないような協調的な存在であるべきです。新しい部室では騒音管理を向上させるために、防音設備が必要とされており、OBの先生方から積極的な寄付をお願いすることとなりました。防音設備の導入によって、軽音楽部員はより良い環境で、周囲の方々にも迷惑をかけずに活動を続けられるでしょう。この記事をご覧になるOBの先生方には、ぜひご支援いただくと幸いです。

さてパーティーは続いてOBの演奏に移ります。
Yellow Fuzz Republic : Vo. 垣田先生(学54期) Dr. 桜井先生(学45期) Ba. 藤山先生(学50期) Gt. 木澤先生(学57期)
チチブラブラザーズ : Vo. 田中先生(学40期) Dr. 成田先生(学44期) Ba. 山下先生(学40期) Gt. 清水先生(学44期)の2バンドがオリジナル曲を演奏されました。オリジナルの楽曲を演奏するスタイルは歌詞も含め究極的な自己表現でもあります。田中先生、桜井先生が作るナンバーは後輩達からも称賛される名曲も多く、軽音楽部であるからこそ聴くことができるものであり、一般に流通する楽曲とは一線を画するものでもあります。

最後は軽音楽部ならではの、飛び入りで演奏できるセッションコーナーです(Vo. 石崎先生 Dr. 河野先生 Ba. 尾原先生(学44期) Key. 木村先生(学57期) Gt. 林先生(学51期)・垣田先生・二村)。Rollover Beethovenを演奏し、その他の方々も入り乱れての演奏になりました。記念撮影をして60周年記念パーティーは盛会に閉会となりました。

2023年の芸能業界の話題ではジャニーズ事務所の解体が世間を賑わせました。時代は変わり、音楽のあり方もこの60年の間に大きく変貌してきました。創部当初

演奏されていたのはハワイアンやジャズであったと聞いております。世間では“不良の音楽”とされたロックが一般に受け入れられ、アイドルグループが登場し、コンピューターを駆使した音楽など多様化が進展しました。音楽の楽しみ方もレコード、カセットテープ、CD、MD、DATなど媒体の進化を経て、今ではスマートフォンによる音楽のストリーミングが主流となっていることからわかるように、文化と技術の変化の波がそのまま音楽の歴史にも影響を及ぼしています。一方、音楽は平和への祈りを表現する手段として普遍的なものでもあります。21世紀になっても、残念ながら世界では争いが絶えませんが、音楽のジャンルや演奏のスタイルの流行は変化し続けても、人との結びつきや国境を超えた平和への願いはジョンレノンの「Imagine」が象徴するように、人類の永遠のテーマでもあります。

軽音楽部員達は学生時代を共に過ごした思い出や社会に出てからも心を通わせるツールを育てているのだと自分の過去を振り返り、ステージに立つとそんな風を感じました。これからも軽音楽部の歴史が途切れず続いていくことを願いつつ、60周年記念パーティーの報告を終えさせていただきます。

参加者：(敬称略)

勝本善衛 (学23期)
飯山 基 (学34期)
星賀正明 (学34期)
森戸俊典 (学34期)
三田浩司 (学38期)
山下英丸 (学40期)
河野武弘 (学41期)
田中 馨 (学41期)
尾原幹啓 (学44期)
清水啓二 (学44期)
清水祥子 (学44期)
成田敬介 (学44期)
石崎英介 (学45期)
櫻井幹士 (学45期)
佐久間 航 (学49期)
田尻健介 (学49期)
土居 温 (学49期)
二村吉継 (学49期)
乾 崇樹 (学50期)
藤山 徹 (学50期)
林 篤史 (学51期)
田中智人 (学52期)
平山 尚 (学52期)
垣田 謙 (学54期)
山川美帆 (学54期)
木澤 隼 (学57期)
木村誠吾 (学57期)
佐田蓉子 (学59期)
上田知佳 (学62期)
東堂まりえ (学63期)
奥野隆祐 (学64期)

砂田 桃 (学64期)
廣川貴久 (学65期)
砂田大賀 (学66期)
中田康貴 (学66期)
芦邊祐規 (学68期)
垣内俊祐 (学70期)
志賀慧史 (学70期)
塩谷一真 (学72期)
澤井優樹 (学72期)
渡辺 愛 (看護専門学校OG)

—— 〈現役部員〉 ——

池田裕菜 (医学部6年)
上田匠真 (医学部4年)
酒井舜也 (医学部4年)
中里かりん (医学部4年)
美濃輪将嗣 (医学部4年)
小林真子 (医学部4年)
中埜 響 (医学部4年)
清水夏鈴 (医学部4年)
飯居華美友 (医学部3年)
市川ウララ (医学部3年)
竹中悠翔 (医学部3年)
八田 響 (医学部3年)
石原幸佳 (医学部2年)
上西輝征 (医学部1年)
湯峯聖也 (医学部1年)
宮崎樹心 (医学部1年)
山本依澄 (看護学部1年)
福森英舞 (看護学部1年)
村上咲絵 (看護学部1年)



仁泉ひろば

jinsen-park

奈良の春日野

文責／岡野 准 (学 21 期)

昭和23年生まれの小生に近い年代の方は、御存知の方が多くと思いますが、女優吉永小百合が歌った「奈良の春日野」昭和40年（西暦1965年）に発表された楽曲が、昭和62年（西暦1987年）に再度脚光を浴びました。切っ掛けはフジテレビの昼休みの人気番組『笑っていいとも!』で、「あかしやさんま」さんが「サユリスト」として有名な「タモリ」さんに対し吉永小百合が鹿の糞の歌を歌っている事を告げると「嘘つけ! 小百合ちゃんがそんな歌を唄うはずは無い!!」とタモリは憤りましたが、その後実際に吉永が歌唱する「奈良の春日野」を聴かされると、タモリはビックリ仰天し落胆しました。その後サンマはからかい続けるのですが、これってハラメントですね。

歌詞は『奈良の春日野青芝に 腰を下ろせば鹿の糞
フンフンフン黒豆や フンフンフン黒豆や フンフン
フンフン黒豆や』というコミカルなものです。

春日野とは春日山の西側のふもと一帯で東大寺と春日大社の間に広がる500haを超える奈良公園の主要部で野生の鹿が約1300頭程暮らしています。奈良公園で鹿煎餅を買って与えようとすると、わらわらと鹿が寄ってきます。鹿は生物なので食べれば所構わず糞をします、個体差は有りますが1頭が1日に出す糞は1kg位と言われています。1300頭だと1日計1.3t、1年間で400tをはるかに超す計算になります。誰かが片付けなければ、臭いもしますしハエも発生するはずですが、実際には鹿の糞だらけということはありません。ですが奈良公園管理事務所では「来園者の出すゴミは収集していますが、シカのフンは掃除していません。」との事です。実際には糞虫（所謂フンコロガシ・エジプトのスカラベ）が鹿フンを食べて綺麗に片付けているそうです。糞虫は甲虫でカブトムシやクワガタの仲間です、日本には約150種のフン虫が知られ、うち約50種が奈良公園で確認されているとの事です。限られた範囲に、国内に生息する種の1/3もいて、自然の状態では10%以下しかない芝の発芽率が、シカに食べられフンに混じって出てくると堅い芝

の種の殻が柔らかくなり、発芽率が40~50%に上がるそうです。広い園内の芝地の芝刈りを業者に委託すると、年間100億円位費用が必要なのですが、鹿が食べてくれるので芝刈り作業は不要との事です。つまり、鹿が芝を食べる→芝生を刈り込まなくても済む→鹿が糞をする→発芽率の増した芝生の種が混じる、糞虫が糞を片付ける→糞虫が増える、芝生が良好な状態に保たれる、環境が保たれる・・・という都合の良い循環が出来るようです。鹿は毎年角が生え変わるのですが、どこで生え変わるかは分かりませんので人為的に鹿の角を切って、角を回収し細工物に加工し収入にしています。入館料が必要ですが「ならまち糞虫館」：開館日時：土日のみ（13:00~18:00）住所：奈良市南城戸町28-3、という私設の昆虫館も出ています。奈良市では鹿が大切にされていますので周辺の地域から奈良市内に鹿が集まってくるそうです。奈良公園には珍しい甲虫も多いし蝶等もいるのですが、動植物の採取について採取禁止の生物や禁止の範囲など複雑な規則があるので、植物や昆虫の採集はしないで下さい。

余談ですが、先程フンコロガシと呼びましたが、日本の糞虫で糞を球にして転がすものはいないとのことです。また、糞虫はクソムシ又はフンチュウと読みます。クソムシとはずいぶん汚い響きですが、甲虫なのでコガネムシに近い形をして角を持つ種類や金属光沢で美しい色合いの種類もいます。観光土産品に「鹿のふん」「鹿の鼻くそ」という菓子も売られています。



新聞 切抜

学 27 期の細井 順先生の記事が京都新聞（11月14日）と中日新聞（11月7日）に掲載されました。

医療

胃がんの父親をみとる中、患者の訴えに耳を傾ける医師の姿に感銘を受けた。「病気を診ても、人を見ることはできていなかった」。44歳で、外科医から緩和ケア医へ転身。愛知県内で初のホスピス立ち上げ、その後ヴォーリス記念病院（滋賀県近江八幡市）で初代ホスピス長に。現在は非常勤の勤務医として、多くの患者に伴走し続ける。盛岡生まれ。法医学者の父親、外科医の叔父などの影響で、自身は大阪医科大（現大阪医科薬科大）を卒業後、自治医科大で外科医に。両親のいる関西に戻るため、淀川キリスト教病院（大阪市）に移った。同時期、がんの痛みを苦しむ父に同病院のホスピスを勧めた。そのホスピスで人生観が変わった。死にゆく人に多くの人が関わり、患者の訴えを丁寧に拾い上げる。「ホスピス医の姿勢」こそ、医師の本来の姿」と感じた。終末期医療の第一人者で、同病院のホスピス長だった柏木哲夫さんに相談し、父をみとった翌年の1996年、緩和ケア医として歩み始めた。

その頃に出会った一人の患者

つらさや悩み 耳を傾け

細井 順さん (72)

者がいる。前立腺がんを患い、腰の骨に転移。「ワニにかまれて振り回されるほど」と、痛みを訴えた。モルヒネを処方しても「半分ほど」の痛みが残った。しかし、男性と話し、丁寧に悩みを聞いたところ、もう半分の痛みも消えたという。心の痛みを取り除くことが体の痛みを軽減した。この経験が緩和ケア医のベースになっている。

2004年、ステージ2の腎臓がんを患った。患者の立場になった入院中、威厳たつぶりに廊下の真ん中を歩く医者や看護師の姿に「患者は本当のことを話せるのだろうか」と思った。



ホスピスってどんなところ？

細井 順さん (72)

緩和ケア医として長年患者に寄り添い続ける細井順さん

淡海抄

今から100年以上前、米国出身のウィリアム・メレル・ヴォーリスが結核療養所「近江療養院」として設計したツツカーハウス（近江八幡市）。結核が不治の病と恐れられていた時代に、いっちらかの尊厳を全うする施設を目指したツツカーハウスは、ヴォーリス精神の象徴とされる。

その精神は、過去の遺産にとどまっただけでなく、今夏、近江療養院を前身とするヴォーリス記念病院のホスピスで医師や看護師たちが、いっちらかとう現場の取材を始めた。

いのちを見つめる

ある日、ホスピス医の細井順先生と訪れた病室で、男性が自分の現状に涙を見せた場面に居合わせた。細井先生はベッド横のいすに腰掛け、涙の背景にどんな葛藤があるのか一つ一つ解きほぐすように男性の話を聴いた。そして「それでも頑張っているという姿を見ても良かったんじゃないか」と語りかけると、男性は思い直したように「確かにそれは悪いことじゃないな」と返した。

私は内心、男性の涙にうろたえていた。死と向き合う人に対して、どんな言葉をかけられるか。自問したけれど、言葉が見つからなかった。

細井先生は「今の自分を『それでもいい』と感じてもらえるように、どうしたらいいか。その人の『できなさ』にとどん付き合おう」と語る。一人の人として寄り添い、共に悩む。そこには心と心との触れ合いを感じる瞬間が幾度もあった。最期を迎える時にかける「お疲れさま」「よく頑張ったよ」という言葉には温かさがにじむ。

細井先生は「生きるとは、いのちに気付くことじゃないか」と話す。その言葉はホスピスを取材する私に投げかけられている大きな問いのようにも感じている。日々、ホスピスでいのちを見つめる人たちを通して、その答えに近づきたい。

(杉原慶子)

か」と感じた。「白衣は医者
のよいであり、権威の象
徴」。復帰後、白衣を着ずに
診療にあたるようになった。
外科医時代は「患者の死は
敗北」と考えていた。しかし
振り返れば、死を前にした患
者は、一番に寄り添うべき存
在だった。「人生は多くの人
に支えられる。それは死ぬ同
じこと」。医学的な対応は当
たり前。患者のつらさや悩み
に耳を傾けることこそが、医
者の本分だと信じている。
(松田雄亮)

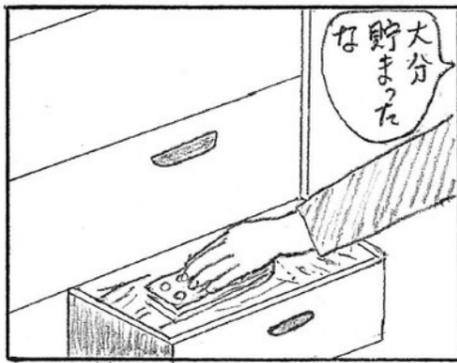
中日新聞 11月7日

京都新聞 11月14日

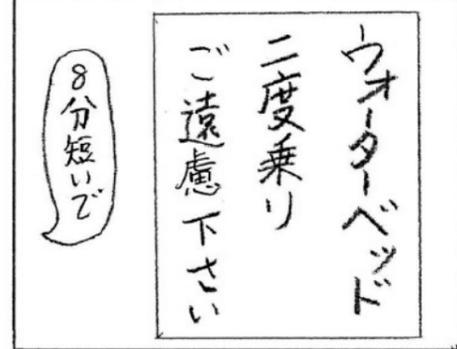
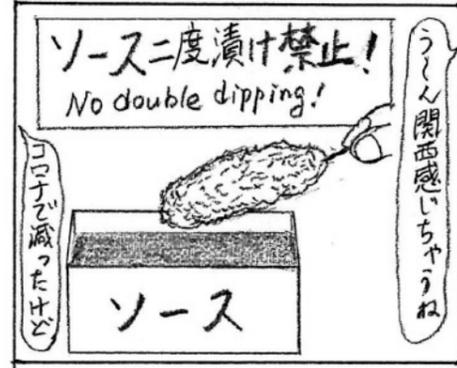
まんが第65回スペシャル拡大版

ポン太ールカプセル 250mg (学31期)

タンス



二度



令和5年5月8日



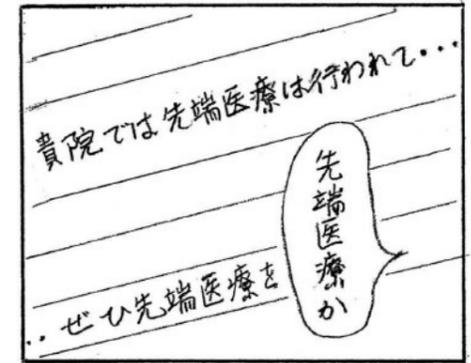
届く?



筋肉内異物摘出術



先端



本部だより

理事会開催報告

令和5年度第1回理事会

日 時：令和5年5月20日（土）午後3時から
場 所：母校総合研究棟12階 第2会議室

I 報告事項

1. 物故者11名
2. 令和5年度入学式
3. 大阪府支部連合会支部長会
4. 板谷外科同門会
5. その他

II 協議事項

1. 議事録署名者の件 可決承認
2. 第30回全国私立医科大学同窓会連絡会「西部会」出席の件 理事長、副理事長出席 可決承認
3. 第31回全国私立医科大学同窓会連絡会「全国会」出席の件 理事長、副理事長出席 可決承認
4. 次期役員推薦候補者の件 可決承認
5. 令和4年度収支決算（案）及び監査報告の件 可決承認
6. 令和5年度総会運営の件 可決承認
7. 名簿印刷データ出力対応の件 可決承認
8. 次回会議の件 可決承認
9. 母校募金パンフレット配布の件 可決承認

令和5年度第2回理事会

日 時：令和5年7月15日（土）午後3時から
場 所：母校新講義実習棟4階 特別応接会議室

I 報告事項

1. 物故者 7名
2. 支部会報告
高槻支部総会
西宮支部総会
東日本支部総会
神戸支部総会
3. その他

II 協議事項

1. 議事録署名者の件 可決承認
2. 会務分掌の件 可決承認
3. 令和5年度奨学生採用の件 7名可決承認
4. 令和6年度総会の件 京都開催 可決承認
5. 令和5年度免除会員の件 可決承認
6. 山口県支部合同同窓会開催の件 可決承認
7. 次回会議の件 可決承認

令和5年度第3回理事会

日 時：令和5年9月16日（土）午後3時から
場 所：母校新講義実習棟4階「特別応接会議室」

I. 報告事項

1. 物故者10名
2. 大阪府支部連合会役員懇談会
3. 全国私立医大同窓会連絡会「西部会」
4. その他

II. 協議事項

1. 議事録署名者の件 可決承認
2. 大阪府連秋季学術講演会出席の件 可決承認
3. 解剖慰霊祭出席の件 可決承認
4. 三重県支部総会出席の件 可決承認
5. 令和6年度学術集会助成申請の件 可決承認
6. 基金運用の件 可決承認
7. 卒業記念品の件 可決承認
8. 三者懇談会の件 継続審議
9. 次回会議の件 可決承認

会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医14期 浅野浅雄先生

令和4年3月19日肺炎の為ご逝去（99歳）
昭和19年卒。

大阪市大正区にて内科をご開業になり、ながきにわたり
地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 富久枝様

高医18期 川上勝朗先生

令和5年10月28日老衰の為ご逝去（97歳）
昭和24年卒。

卒業後、大阪医科大学小児科に入局。昭和33年からは助教授を務められ、ポリオワクチン開発など多大な功績をあげられました。昭和55年に吹田市でご開業され、平成31年に閉院されるまで、地域の小児医療に多大な貢献をなさいました。地区医師会の会合や仁泉会支部会にも積極的にご参加になり、ご自身の経験を生かした貴重な提言をなさっておられました。
ご遺族 長男 朗（ろう）様

学部6期 中井育夫先生

令和5年10月19日ご逝去（95歳）
昭和32年卒。
ご遺族 妻 美智子様

学部11期 安藤千里先生

令和5年10月17日老衰の為ご逝去（85歳）
昭和37年卒。
八尾市にて耳鼻咽喉科をご開業になり、地域医療に尽力されました。
ご遺族 養女 竹田加代様

学部16期 高桜龍一先生

令和5年11月13日慢性閉塞性肺疾患の為ご逝去（82歳）
昭和42年卒。
昭和53年2月1日に富山県下新川郡にて内科をご開業になり、平成28年10月31日に閉院されるまで39年間にわたり地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 美根子様

学部18期 梅原稔先生

令和5年8月1日慢性呼吸不全の急性憎悪、右膿胸の為ご逝去（83歳）
昭和44年卒。
卒業後、済生会茨木病院に勤務されました。昭和60年に高槻市にて整形外科を開院され、平成22年までの25年間地域医療に貢献されました。高槻市医師会理事、学校医もお務めになりました。
ご遺族 妻 由紀子様

学部23期 福本謙一先生

令和4年10月31日悪性リンパ腫の為ご逝去（75歳）
昭和49年卒。
ご遺族 子 諒子様

学部23期 松本博城先生

令和5年11月10日肺塞栓症の為ご逝去（76歳）
昭和49年卒。
卒業後、京都大学脳神経外科学教室に入局されました。昭和50年に神戸神鋼病院に出向された後、昭和52年に近畿大学外科学教室に入局され、昭和63年からは米国カリフォルニア州ベクトンディッキンソンモノクローナル抗体研究所にて客員研究員として勤務されました。平成1年からの近畿大学外科でのご勤務を経て、平成10年に富田林市にて花園クリニックをご開業になり、地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 礼子様

学部27期 曾我部俊大先生

令和5年10月8日心機能不全の為ご逝去（70歳）
昭和53年卒。
卒業後、母校外科に入局されました。昭和62年1月から平成5年8月までの医療法人清仁会シミズ病院でのご勤務を経て、平成5年9月に京都市にてそがべ医院をご開業になり地域医療に貢献されました。現在医院はご長男様が引き継いでおられます。
ご遺族 妻 文子様

学部28期 三木正之先生

令和5年11月12日大腸がんの為ご逝去（71歳）
昭和54年卒。
平成5年に高槻市にて医療法人三木医院（小児科）をご開業になり、令和1年に閉院されるまでの26年間地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 泰子様 長女 麻椰様

令和6年度定期総会開催(予定)のお知らせ

令和6年度の定期評議員会・総会は下記にて開催を予定しております。
先生方におかれましては、今から予定にお加えいただければ幸いです。
多数のご参加をお待ちしております。

記

日 時：令和6年5月26日(日) 午後3時から

場 所：ホテルグランヴィア京都

総会終了後懇親会を開催いたします。

以上

令和6年度大阪府支部連合会支部長会 開催のお知らせ

令和6年度の大阪府連支部長会は下記にて開催いたします。
詳細の御案内は郵送にてお送りさせていただきます。

記

日 時：令和6年5月11日(土) 支部長会 午後4時30分から

場 所：ホテルグランヴィア大阪

以上

支部会クラス会等のご案内募集

支部会、クラス会等の開催告知を仁泉会ニュースに掲載させていただきます。

お気軽に事務局までお送り下さい。

※発刊予定を巻末の「編集部より」を参考に、なるべく早くお知らせいただけますと幸いです。

2024年度版会員名簿作成について

令和6年度事業として、2024年度版会員名簿の作成準備を行っております。
仁泉会ニュース3月号(55巻2号)に登録事項確認書を封入させていただきますので
先生方におかれましては、登録記載事項をご確認の上、ご返信をいただきますよう、
よろしくお願い申し上げます。

名簿作成にあたり、登録確認を他社に委託は致しません。また、電話で先生もしくはご家族、従業員様に登録事項のご確認をすることもございません。

必ず返信先を仁泉会事務局にした上で、郵送にてお尋ねをしておりますのでご留意
をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

名簿編集係

大阪医科薬科大学 女性医師の会 メールアドレスご登録のお願い

仁泉会女性会員の皆様に下記の通りメールアドレスのご登録をお願い申し上げます。

一部の先生方で、メールが差し戻される事例が発生しております。

メールアドレスのご登録

メールアドレス：omc-women@jinsenkai.net

上記アドレスまで ①氏名(本学在学中の旧姓) ②卒業年度もしくは学期

③メールアドレス をお送りください。

お手数をおかけしますが、皆様のご協力をお願い申し上げます。

※迷惑メール対策を取られている先生におかれましては「jinsenkai.net」ドメインからの受信を
「許可」にご設定いただきますようお願い申し上げます。

大阪医科薬科大学女性医師の会
代表 福本敏子(学24期)

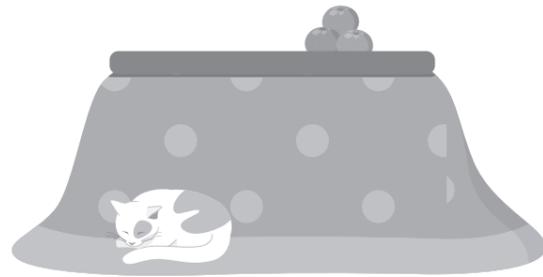
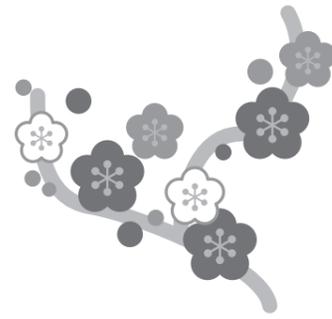


仁の泉

学部10期クラス会
三六医会 様

仁泉会にご寄付を頂戴いたしました。
厚く御礼申し上げます。
誌面にご掲載をさせていただき
感謝の意を表します。

一般社団法人大阪医科薬科大学仁泉会
理事長 安藤 嗣彦



編集部より

会費納入のお願い

年会費
令和5年度 10,000円
令和4年度 10,000円
令和3年度 10,000円
納入のご協力をよろしくお願い致します。
事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。ご投稿お待ちしております。

- 55巻2号（令和6年3月1日発行）
締切 令和6年1月末日
- 55巻3号（令和6年5月1日発行）
締切 令和6年3月末日
- 送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町 2-7
E-mail : jimuj@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

今号は安藤仁泉会理事長、植木大学理事長、佐野学長をはじめ、各支部長先生方の新春挨拶などで、久しぶりに分厚くなっています。また、各支部や同窓会、クラブOB・OG会の模様なども伝えていただきました。コロナ禍で3年以上自粛ムードが漂っていましたが、徐々に以前に戻りつつあるようで、仁泉会ニュースへの投稿が増えることを期待しています。しかし、以前とまったく

同じようになるのは難しそうです。各種学会やセミナーはハイブリッドやWEBのみの開催になっていますし、情報交換会、懇親会はことごとくなくなっていました。これらが完全復活することはなさそうです。懇親会がなくなると主催者側は開催費用が節約できます。案外儲かっているかもです。

(治)



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: **072-761-8434**

受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

メディア掲載・書籍発行の際は 編集部にお知らせください

テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、
自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、
効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより
次世代を担う「優れた医療人を育成」。



2027年全容完成予定

2025年B棟完成

2022年A棟完成



Since
1927

1960年病院1号館完成



募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実

募金目標▶10億円

募集期間▶～2027年3月

募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円

顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、
銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました
方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の
無料受診券を進呈します。

申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付 WEB
サイトよりお申し込みいただくか、
募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、
基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円

申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。

【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・
法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。



学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: <https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html>

至誠仁術を備える人材の育成をめざして

ご支援のお願い